

聖徒の道

11
1995



末日聖徒
イエス・キリスト
教会

聖徒の道

1995年11月号



表紙——「男女間の合法的で愛に満ちた結婚に代わる関係は、人間社会の根本的な枠組み、つまり家族という単位を打ち壊すのに一役買っている。」ジェームズ・E・ファウスト副管長は、大管長会メッセージ「主に仕え、悪魔に立ち向かう」の中でこのように述べている。本誌 p. 2 (写真/ウェルデン・アンダーセン)

こどものページ——コフモエティニ・ヘイチ（6才）タヒチ島のヘイリに住んでいます。初等協会と歌と絵を描くことが好きです。家では両親のお手伝いをします。落ち葉のそうじも楽しいです。（14ページの「せかいのおともだち」には、ほかの子供たちの話がのっています。）

一般

大管長会メッセージ 主に仕え、悪魔に立ち向かう 第二副管長ジェームズ・E・ファウスト	2
ジェラルド・ジロー・カリエ夫妻——常に新たな出発を バーバラ・ワークマン	14
ママの足跡 ダビダ・ダルトン	19
主はわたしの力 アナ・ルゴボニ・ルズ	27
10代の子供との対話 ウィリアム・G・ダイヤー	28
地上の天国——写真でつづるエッセイ	34
いつでも主のために エバ・C・ピーン	41

青少年

わたしの奇跡 レベッカ・ローズ	12
質疑応答——わたしは、御霊を感じたことはありません。 何か間違っているのでしょうか。	20
このうちで最も大いなるもの サラ・クエステル	24
もはや異国人ではなく ジョン・ネルソン・シュナイダー	32
創り主への感謝 ベサニー・M・ガルブレイス	42
高潔 ジョセフ・B・ワースリン	44

定期特別記事

読者からの便り	1
家庭訪問メッセージ——「なお感謝し」	25

こども

イエス様のバプテスマ	2
ちいさなみんなのために ダイアナ・エカーセル・ジャンソン	4
家路 クライン・D・バラス	5
分かち合いの時間——きよい思い カレン・アシュトン	8
おもちゃばこ	10
野外レッスン ブルース・T・フォーブズ作	11
せかいのおともだち	14
「正義を選べ」 L・トム・ペリー長老	16

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊——イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊——インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊——チェコ語、ブルガリア語、ハンガリー語、アイスランド語、ロシア語。

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト
十二使徒定員会：ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング
編集長：ジャック・H・ゴズリンド
顧問：スペンサー・J・コンディー、L・ライオネル・ケンドリック
教科課程管理部責任者
実務部長：ロナルド・L・ナイトン
企画・編集ディレクター：フライアン・K・ケリー
グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボグ

国際機関誌スタッフ
編集主幹：マービン・K・ガードナー
編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン
編集副主幹：デビッド・ミッチェル
編集補佐/こどものページ：ディエーン・ウォーカー
工程管理：メアリーアン・マーティンデル
出版補佐：ベス・デーリー

デザインスタッフ
機関誌グラフィックスディレクター：M・M・カワサキ
アートディレクター：スコット・パン・カンペン
デザイナー：シェリー・クック
制作主幹：ジェーン・アン・ピーターズ
制作：レジナルド・J・クリステンセン、デニス・カービー、マシュー・H・マックスウェル

予約購読スタッフ
購読管理ディレクター：B・レックス・ハリス
配達部長：クリス・クリステンセン
マーケティング部長：ジョイス・ハンセン、ケント・H・ソレンセン

聖徒の道1995年11月号第39巻第11号
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351
印刷所 株式会社 リック/クロスロード
定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)
半年予約1,200円(送料共)
普通号/大会号200円

Copyright © 1995 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. Printed in Japan. 英語版承認—1993年10月 翻訳承認—1993年10月 原題—International Magazines November, 1995. Japanese. 95991300
●定期購読は、「聖徒の道」予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。
●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351(代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資料管理部配送センター ☎044-811-0417

The Seito No Michi (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Second-class postage paid at Salt Lake City, UT 84150. Subscription price \$14.00 a year. \$1.50 per single copy. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Church Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to Seito No Michi at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.

優れた情報源

わたしは教会に入った12年前から、ずっとこの『リアホナ』(ポルトガル語版)を定期購読しています。この機関誌は、教会の指導者と会員の間を結ぶ以上の働きをしている、と証できます。主が読者を祝福するために用いられる手段であると思います。特に、イエス・キリストの福音に生きる人々の経験を読むとき、御霊によって心を動かされます。

わたしはワードの長老定員会会長として、靈感あふれる「大管長会メッセージ」を、ホームティーチングのとき祝福を与えるために用いるよう、兄弟たちを励ましています。

ブラジル、クリチーバ・イグアステーク、クリチーバ第4ワード
エルソン・カルロス・フェレイラ

家族歴史の手引き

わたしは、『リアホナ』(スペイン語版)に非常に感謝しています。イエス・キリストの福音に対する証が一冊一冊、読むごとに強くなるからです。

支部では家族歴史スペシャリストの召しを受けていますが、神聖な家族歴史に関するすべての記事に感謝しています。特に参照聖句と、中央幹部の靈感あふれる話と記事は楽しく読んでいます。

スペイン、マラガ伝道部マラガ第1支部
フランシスコ・ホセ・カゾーラ・グラナドス

「ジュリア・マービンベラ」

わたしは、1995年3月号の「ジュリア・マービンベラ」の記事に感動し、御霊を感じました。何と強く、勇気があり、気高い婦人でしょう。読者は、彼女が周りの人々に示した模範を知り、人は自らの置かれた環境にかかわらず、

自分とほかの人々の生活を変えることができるということを知るので。

この混乱した世の中で、たった一人できえ良い影響を与え得ると気づきました。世界はマービンベラ姉妹のおかげで変わっていくことでしょう。わたしも確かに変わるでしょう。

フィリピン、リングエンステーク
サンカルロス第1ワード
ハンナレイ・B・ソリアーノ

名称の変更

わたしは1986年に65歳でバプテスマを受けました。いつも『タンプリ』(フィリピンの英語版)を定期購読してきました。イエス・キリストの福音の知識を増し加えるのを助けてくれるからです。ほかの国々を旅することはできませんが、この機関誌を通して世界中の聖徒たちと会うことができます。彼らの生活について読むとき、御霊を感じます。

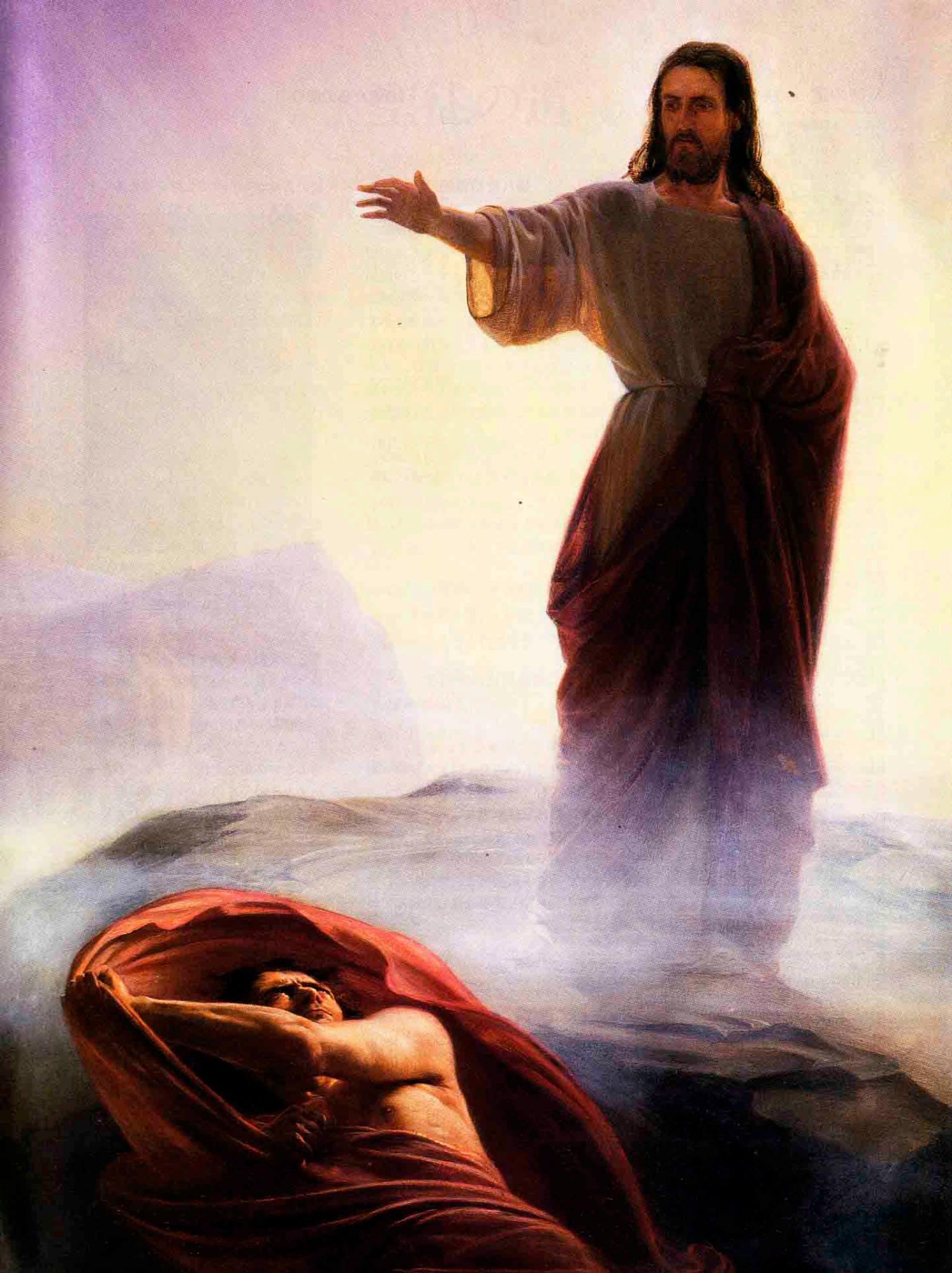
機関誌の名前が『タンプリ』から『リアホナ』に変わるようですが、申し分のない名前ですね。リアホナがリーハイとその民を約束の地に導いたように、機関誌『リアホナ』は読む人をさらに大いなる霊性へと導いてくれるからです。

フィリピン、タクロバン伝道部
カトバロガ第1支部
アルバーロ・R・タディア

編集室から

皆さんの手紙、記事、物語などをお寄せください。どの国の言葉でもけっこうです。投稿の際は、氏名、住所、ステーク/伝道部/地方部、ワード/支部名を明記してください。あて先は下記のとおりです。

International Magazines
50 East North Temple Street
Salt Lake City, Utah 84150 U.S.A.



主に仕え、 悪魔に立ち向かう

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

今の時代の人々はサタンの影響についてあまり語ろうとしません。恐らくこの件について話すと、よい評判が得られないからでしょう。しかし、わたしはあえてお話ししようと思います。こう言った人がいます。「悪魔について多くのことを耳にしました。悪魔について非常に多くの文献も読みました。悪魔と取り引きしたこともあります。何の益もありませんでした。」わたしたちは、多くの事柄が社会的、政治的な正しさの標準で判断される時代に生きています。わたしは人間の行動に対するこの誤った考え方に異議を唱えたいと思います。サタンの影響は、ますます人々の間に広がっています。エリザベス・バレット・ブラウニングはこう述べました。「悪魔が悪魔と分かるのは、それなりの姿をしているときである。」¹一方、シェークスピアはこのように言っています。「おおかみが人になつくとおもうやつは、どうかしてる。」²

悪魔とその神秘に好奇の目を向けるのは、よくありません。悪に近づいても、決してよいものは得られません。火遊びと同じで、容易にやけどを負います。「罪の知識は犯罪を誘 [います。]」³ 唯一の安全な道は、サタンとサタ

救い主の模範に目を向けていただきたい。主は断食と祈りをして、御業のために自らを備えられた。そしてサタンの誘惑を退け、勝利を収められた。



ンがそのかす邪悪な行いや習慣から遠ざかることです。悪魔崇拝、魔法、呪術、妖術、ブドゥー教、黒魔術、そのほかいかなる形であれ、邪神崇拝は疫病のように避けなければなりません。

しかし、ブリガム・ヤング大管長は、「罪悪とその結果……について学ぶ」⁴ ことは大切であると言っています。サタンは世の諸悪の根源です。神の業に敵対する動きの陰には、必ずサタンの暗躍があることを忘れてはなりません。アルマはそのことについて、簡潔に述べています。「善いものは何であろうと神から出、悪いものは何であろうと悪魔から出るからである。」⁵

わたしがこのテーマを選んだ大きな理由は、教会員に警告を与えて助けるためです。パウロもこう言っています。「そうするのは、サタンに欺かれることのないためである。わたしたちは、彼の策略を知らないわけではない。」⁶ わたしたちは世の狡智についてあまり知識を持たない会員たちが、サタンの誘惑や欺きから自分を守るように願っています。

わたしの話は、1955年にブリガム・ヤング大学の礼拝集会で話された、マリオン・G・ロムニー長老の説教を基にしています。「現在、わたしたちの中には悪魔を怒らせずに、主に仕えようとしている人々がいます。」これは言葉のうえで矛盾があります。マリオン・G・ロムニー長老は、続けてこう語っています。「わたしたちは一方にある平安、——これは預言者ジョセフ・スミスによって回復されたイエス・キリストの福音に従って得られます——それともう一方にある不和や争いとのいずれかを、どうしても選ばなければならないのでしょうか。」⁷

こう言った人がいます。「別れ道に来たら、あれこれ考えずに、どちらでもまず行ってみなさい。」しかしこの方法は、うまくいきません。救い主はこう言われました。「だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。」⁸ 今日多くの人々が、主と利己的な利益という二人の主人に兼ね仕え、しかも悪魔を怒らせずにおこうとしています。永遠の父なる神の影響力は、神に従うように人々を促し、勧め、鼓舞してくれます。逆に悪魔の力は、神の戒めを信じず、無視するように働きかけます。

ロムニー長老はさらにこう言っています。「(死すべき人間が行う) 選択の結果は全か無かといった種類のものです。この相反する力の影響を受けずに済むことはあり

ません。人は必然的にどちらかの力によって導かれます。人は神から授かった選択の自由によって、選ぶ能力と特権を与えられています。しかし選択そのものは、本人の義務です。人は同時に二つのものに仕えることはできません。それはイエスが言われたように、『だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。……あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない』からです。」⁹

1987年10月の総大会で、わたしは次のような話をしました。「皆さんはこれから、神の王国が強められていくにつれて、サタンの勢力も増大していくさまを目の当たりにすることでしょう。サタンは常にその勢力を広めています。わたしは、それはこの業の真実性を証する証拠であると考えています。これから先サタンの攻撃はさらに狡猾になり、また公然と行われるようになるでしょう。そしてさらに巧妙に偽装するとともに、大胆さも増し加えられていくことでしょう。あらゆる罪悪と、それに抗するためのより大きな力を理解するには、さらに高い霊性が必要になります。」¹⁰

墮胎

墮胎はアメリカ合衆国で、そして実際に世界の多くの国々で、社会的に受け入れられつつある邪悪な行為です。今日の政治家の多くは、墮胎に賛成してはいませんが、墮胎を選ぶ女性の権利に対して政府が介入することには反対しています。

1994年2月3日に首都ワシントンで行われた朝の祈禱会で、マザー・テレサはこの件に関し、わたしがかつて聞いた中で最も誠実で力強い、真理の宣言をしました。84歳になる彼女はユーゴスラビア出身の修道女で、長年にわたって、インドで極貧状態にある人々の世話をしてきました。彼女は現在高齢のために体力的には衰えていますが、勇気にあふれ、計り知れない霊的な活力を備えています。マザー・テレサはアメリカを悩ませている、社会的病弊の核心に触れるメッセージを残しました。アメリカは昔から地上の人々に豊かに恵みを与えてきましたが、現在は利己的な風潮に包まれています。彼女は、その利己的風潮の最たる証拠は、墮胎であると述べています。マザー・テレサは、墮胎を、増大する街中での暴力や殺人に結びつけて、このように語ったそうです。「『母親は自分の子供さえ殺してもよい』という考えを受け入れて、どうしてほかの人に『互いに殺し合っ



愛情を込めて養育される環境に誕生する代わりに、天父の霊の子供たちの多くが、墮胎という邪悪な行為によって、現世での経験を奪い取られている。

けない』などと言えるでしょうか。……墮胎を受け入れている国々は、国民に愛することを教えず、欲しいものを手に入れるためには暴力を用いるよう教えているのです。』¹¹

続いて彼女は、インドをはじめ世界の様々な地域で示された孤児への思いやりについて触れ、感謝を伝えました。しかし、その後でこう言い添えたのです。「このような思いやりは非常にすばらしいものです。しかし、この優しさを示した同じ人々が、母親の明確な意志によって殺されている何百万人もの胎児については、心を砕いていないのです。これこそ、今日平和を破壊しているもの、すなわち墮胎です。この行為は、人々の目を曇らせています。』¹² この力強いメッセージを採り上げて、コラムニストのカル・トーマス氏はこのように語りかけています。「墮胎という行為がもてはやされるなら、人も国も人命を重んじ、尊べるだろうか。ボスニアでの無差別殺人について嘆きながら、なぜ人々はさらに恐ろしい手段により、テレビカメラに映されない所で胎児たちの命が奪われていることを嘆かないのだろうか。』¹³

最後にマザー・テレサは、子供を産みたくないと思っている妊婦たちに、その子供を自分に託すように懇願しました。彼女はこう言っています。「わたしは墮胎されようとしている子供たちを喜んで引き取り、その子を愛してその子からも愛されるような御夫婦にお渡ししたいと思います。』¹⁴ この傑出した高齢の女性は、何と高い霊的勇気を示したことでしょう。きっと悪魔は怒りだしたことでしょう。しかし、彼女のこのすばらしい宣言は、新聞記者や報道関係者からはあまり大きく採り上げられませんでした。恐らく彼らにとって、政治的、社会的な正しさに従う方が安全だったのでしょう。結局彼らは、だれでもしている、あるいは合法的だ、と主張することによって、自分たちの立場を正当化します。幸いなことに、聖文や預言者のメッセージは、そのように変わることはありません。

「存続可能な人口増加」

次に、創世記の主の言葉に対する、現代のチャレンジについて話したいと思います。「生めよ、ふえよ、地に満ちよ……。』¹⁵ これまでの生涯でわたしは、地球は人口過剰であるという論議を、何度も耳にしました。1994年にエジプトのカイロで開かれた、国連国際人口開発会議では、様々な討論が交わされました。その会議で有意義な多くのことが達成されたのは、疑う余地ありません。しかしその議論の中心になったのは、社会的にも受け入れられている言葉、「存続可能な人口増加」でした。この概念は、あちこちですます採り上げられるようになってきました。サタンはこの言葉に、その邪悪な計画を何と巧妙に隠していることでしょう。

発展途上国において、この新しく作られた言葉「存続可能な人口増加」に反対して、荒野の中で呼ばわる声はほとんどありません。一方、雑誌『フォーブズ』には「人は資産であって、負担ではない」という、思慮深い論説が掲載されています。この論説には、人口増加の抑制は経済発展に不可欠であるという、広く受け入れられた前提の愚かしさが、率直に述べられています。「自由な民は資源を『枯渇させる』ことはない。むしろ産み出すのだ。』¹⁶

『U. S. ニュース・アンド・ワールド・リポート』誌には、「100億人分のディナー」という記事が掲載されました。その記事によれば、地球は少なくとも800億人分の食糧の産出が可能であり、これは西暦2,050年に予





想される100億人という人口の8倍に相当する、と述べています。さらにある研究によれば、「科学技術が進歩して、地球は1兆人分の食糧を賄える」¹⁷と推定しています。「存続可能な人口増加」を主張する人々は、将来を見通す力と信仰に欠けています。主は言われました。「地は物に満ち足りて余りあり。」¹⁸わたしにとってはこの言葉だけで十分です。また人類全体にとっても、十分でなければなりません。これを語られたのは主だからです。

同性愛

同性愛に基づく関係に対する教会の立場は、わたしたちが悪魔と敵対するもう一つの領域です。同性愛者同士の結婚に反対する大管長会と十二使徒の声明は、これからも攻撃を受け続けるでしょう。サタンはわたしたちが惨めな状態に陥ることだけに関心があります。彼は、神の計画に反する行いをするよう男女を説きつけて、それを促進しています。サタンがそのために用いる方法の一つは、神聖な創造の力を誤用するように奨励することです。真実の結婚は、男性と女性の間で合法的に、または宗務上の権能によって行われます。結婚というきずなの下にある、夫と妻の間の性的関係のみが、主において受

サタンは、神の計画に反する行いをするよう男女を説きつけている。男女間の合法的で愛に満ちた結婚に代わる関係は、人間社会の根本的な枠組み、つまり家族という単位を打ち壊すのに一役買っている。

け入れられます。

同性愛は遺伝性のものである、という広く受け入れられた理論が現に存在しますが、そんなことがあり得るでしょうか。この理論を完全に裏付ける科学的証拠など、どこにもありません。かりにそうだとしても、この理論は人に幸福をもたらす計画の全体を台なしにしまいます。わたしたちは創世の以前から、男性あるいは女性として定められました。同性愛は先天的なものであるという、社会的に広く受け入れられた考え方に反して、品位ある多くの権威者たちは、同性愛は生得のものではないと主張しています。先天的な同性愛指向が存在するという誤った考え方は、罪を悔いる人々から自分を変える機会を奪い、最終的には彼らを失意と落胆、絶望へと導きます。

男女間の合法的で愛に満ちた結婚に代わる関係は、人間社会の枠組みを打ち壊すのに一役買っています。悪魔

はきっとこれを喜んでいることでしょう。わたしの言うこの枠組みとは、家族を指します。こうしたいわゆる新しい生活様式を、正しいものとして受け入れてはなりません。なぜならそれらは、命をもたらし男女の結びつきが合法的な結婚のきずなの中でのみ行われるよう命じた、創世記にある神の戒めに反するものだからです。すべての成人がこのような生活様式を受け入れたら、それは人類家族の終焉しゅうえんを意味します。

家庭の崩壊

たとえ親に落ち度がない場合でも、家庭が崩壊する度に、悪魔は喜んでいることを、お伝えします。特に、子供がかかわっている場合はそうです。子供を肉体的、霊的に軽んじる風潮は、世の多くの社会的病弊を生じる下地となっています。

「小さな」罪

わたしはここで、悪魔を怒らせない、なまぬるいやり方について話したいと思います。ニーファイは悪魔が用いる常とう手段についてこう記しています。

「また、悪魔はほかの人々をなだめ、彼らを欺いて現世での安全を確信させるので、彼らは、『シオンの中では、すべてが良い。まことに、シオンは栄えており、すべてが良い』と言う。悪魔はこのようにして人々をだまし、巧みに地獄に誘い落とすのである。

そして見よ、悪魔はほかの人々にへつらい、『地獄はない』と告げ、『悪魔はいないので、わたしは悪魔ではない』と言う。悪魔はこのように彼らの耳にささやいて、決して逃げられない恐ろしい鎖で縛ってしまう。』¹⁹

C・S・ルイスは悪魔の策略について鋭い洞察を示しています。彼が書いた物語の中に、経験豊かな悪魔のスクルーティブが、見習い修業中のワームウッドに、こう指示を与える場面があります。

「君はこんなのは皆極めて小さな罪だと言うだろう。すべての年若い誘惑者の常で、君もぱっと派手な邪悪さの報告ができたらしきりに思っているのだろう。しかし……もし罪の集積の効果によって人を光から漸次遠ざけ、虚無の中にじりじりつれこむなら、罪はどんなに小さくても構わない。……まこと地獄への最も確実な道はなだらかな道である——ゆるやかな勾配こうばい、やわらかな足ざわり、急な曲がり角もなく、里程標もなく、道標もな

く道しるべもない道である。』²⁰

人々の間でよく言われる「道徳的法律」と呼ばれるものがあり、かけ事やアルコールの摂取、有害な薬物の使用といった、いわゆる悪魔の小さな罪に対して逆襲をしています。寛大なところを見せたいと願う人の中には、宗教的な信条を押しつけないふりをして、こう言う人々がいます。「わたしは飲酒もかけ事もしません。しかし、飲酒やかけ事をしたいと願う人々を抑制する法律があるべきだとは思いません。」このような考え方は、社会悪のために負わなければならない健康面での犠牲と社会的代価とを、完全に無視しています。彼らは愚かにも、法律が人の行動を規制することはできないと、主張します。わたしは法律家としての長い経験から、すべての刑法は道徳的基盤を持つという結論に達しました。

悪魔を喜ばせる

さて、悪魔を怒らせずに主に仕える、もっと支障のない方法に話を移しましょう。神殿推薦状を所持して、それを行使しないのは、かなり手ぬるい方法のように見えます。しかし神殿の近くに住んでいる場合、恐らく、神殿推薦状を所持してそれを行使しなければ、悪魔を怒らせはしないでしょう。サタンが怒りを感じるのは、むしろわたしたちがその推薦状を使って神殿に参入し、神殿が与えてくれる霊的な保護を受けるときです。神殿に参入する計画を立てていながら、あらゆる種類の障害が起きて、結局参入できなくなったことは何回あったでしょう。わたしたちが神殿で礼拝するとき、悪魔は必ず怒ります。かつてブリガム・ヤング大管長は神殿建設についてこう語りました。聖徒たちの中には「わたしはそうしたく(神殿を建てたく)ありません。神殿を建てると、必ず地獄の鐘が鳴り始めるからです」と言う人がいます。これに対してヤング大管長はこう答えています。「地獄の鐘をまた聞きたいものだ。もしわたしたちがこの神殿を完成させれば、地獄の者どもが皆活動し始めるだろう。』²¹ ハンター大管長は「主の神殿を教会員であることの崇高な象徴とするようにお勧めします」²²と述べました。

教会は人道的な救援活動を世界各地で活発に展開していますが、わたしたちの信仰の表明がこの奇しき活動にだけ限られていたら、どの程度サタンに不快な思いをさせるでしょうか。わたしたちが社会的な正義というよきおとずれを宣べ伝えても、悪魔が動じないのは明らかです。しかし、ジョセフ・スミスが神の預言者であって、



わたしたちがその推薦状を使って神殿に参入し、神殿が与えてくれる霊的な保護を受けるとき、サタンは怒りを感じる。わたしたちが神殿で礼拝することに対し、サタンは常に怒りを抱いてきたのである。

御父と御子にまみえたことを、個人の証^{あかし}をもって大胆に宣言するなら、また、『モルモン書』がキリストのもう一つの証であることを宣べ伝え、偉大な幸福の計画を履行するために、完全な福音が簡潔なままに力を備えて回復されたことを宣言するなら、悪魔は激しく怒りだすでしょう。

わたしたちは、救い主の送られた完全な生涯と、贖罪^{しよく}によって全人類のためになされた崇高な御業について語る時、闇の力に戦いを挑んでいるのです。わたしたちはこの崇高な賜物のおかげで、悔い改めを通して、サタンの貪欲な触手から逃れることができるのです。

逆に、どの道も天国に通じているのだから、道の選択は問題ではない、わたしたち全員が結局は神の前に行けるのだから、と論じるのであれば、わたしたちは悪魔を喜ばせているのです。わたしたちは皆神の子供なのだから、どこの教会に所属しようと問題ではない、だれもが同じ場所に向かって進んでいるのだから、と主張するのも、同じように悪魔を喜ばせませぬ。

デルバート・L・ステイプラー長老は、こう語りました。「人の手になる信仰（まさにこれは人造なのです）は心地よく聞こえますが、聖文はそれを支持していません。皆さん一人一人に申し上げます。神の前に至る道はそれほど簡単ではありません。」道はまっすぐで細いのです。さらにステイプラー長老はこう続けます。「この偽りの説が宣べ広められるとき、悪魔はきつとしたり顔でいることでしょう。というのも、啓示された真理に対して、悪巧みや偽りで人の心を暗くさせ、教義、儀式、およびこうした儀式をだれがどのように執行するかにかかわらず、どの宗教でも神に受け入れられると人に信じさせるのは、悪魔の喜ぶところだからです。」²³

サタンに立ち向かう

しかし、サタンの力を恐れて萎縮^{いしよく}する必要はありません。わたしたちが許さなければ、サタンはわたしたちに対して力を振るうことはできません。サタンの真の姿はおく病者です。わたしたちに確固とした心構えがあれば退却します。使徒ヤコブはこう勧告しています。「そういうわけだから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ちむかいなさい。そうすれば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう。」²⁴ ニーフアイも、サタンは義人の「心を支配する力を持たない」²⁵ と言っています。

コメディアンなどが「わたしにそれをさせたのは悪魔だ」と言って、自分の間違いを正当化するのを聞くことがあります。わたしは、いかにサタンとはいえ、人間を意のままに動かせるとは思いません。確かにサタンは誘惑したり欺いたりしますが、わたしたちが許さないかぎり、わたしたちを動かすことはできません。

わたしたちに与えられているサタンに抵抗する力は、わたしたちが気づいている以上に強いものかもしれません。ジョセフ・スミスはこう教えています。「肉体を持つ者は、肉体を持たない者を支配する力を持つ。悪魔はわたしたちが許さないかぎり、わたしたちを支配することはできない。わたしたちが神から与えられたものに背くとき、悪魔はその力を得るのである。」²⁶ またこうも教えました。「邪悪な霊にも活動の範囲があり、限界があり、支配を受けている律法がある。」²⁷ ですから、サタンとその使いたちは何でもできるというわけではないのです。



PHOTOGRAPH BY WELDEN ANDERSEN

聖霊の賜物

サタンは、現代のだまされやすい人々の中で大きな成功を収めていて、その結果、非常に多くの人々がサタンとその使いたちの犠牲になっています。しかし、彼らの力から身を守る強力な盾があるのです。それは聖霊の賜物を通して与えられる識別の力です。これは主の戒めを守り、生ける預言者の勧告に従おうと努力する人々に、個人的な啓示を通して天から直接与えられるものです。

確かに、神の栄光にひたすら目を向ける人は、個人の啓示を受けることができます。なぜなら彼らの体は「光明に充たされて〔その〕中に暗黒」がなくなると約束されているからです。²⁸ サタンの業は、福音の聖約と儀式に従い、キリストのもとに来るすべての人の働きによって、打ち砕かれます。主の謙遜な弟子は決して悪魔にだまされません。サタンが人を支え、高め、祝福することはありません。捕らえた人々に恥を被らせ、惨めな状態に放っておきます。しかし神の御霊は人々を支え、高める力を与えます。

断食と祈り

祈りと断食がサタンの誘惑に立ち向かう道徳的、霊的

「サタンはその手下どもを彼らが怠けているときに選んだ。しかしイエスはその弟子たちを、彼らが忙しく働いているときに選ばれた」という言葉がある。熱心に労働に取り組むことを子供たちに教えるのは、悪を抑える優れた方法である。

な力と与えてくれるすばらしい方法であることを、わたしは強調したいと思います。しかしこれは難しく嫌だと皆さんは言うかもしれません。救い主の模範に目を向けてください。主は荒れ野に出て行き、断食と祈りをして、御業のために自らを霊的に備えられました。主は悪魔の大きな誘惑に遭われましたが、霊の聖めによって、すべての悪に勝利を収められました。

勤労は、悪を抑えるもう一つの方法です。ユタ州のシンボルは「ビーハイブ（蜜蜂の巣）」です。わたしたちの先祖は勤勉と労働の習慣を尊びました。十二使徒定員会補助であったジョン・ロングデン長老はハーンドン氏の言葉を引用して、こう述べました。「サタンはその手下どもを彼らが怠けているときに選んだ。しかしイエスはその弟子たちを、彼らが網を直したり、海に投げたりして、忙しく働いているときに選ばれた。」²⁹

地上では、偽り、混乱、暴力、無秩序、破滅、苦悩、不正などがますますひどくなっています。しかしわたしは、それらから守ってくれる力が存在することを、証したいと思います。その救いの力とは、主イエス・キリストの福音の永遠の原則、聖約、儀式です。福音の原則、聖約、儀式には、全能の神の神権の権能と力が伴っています。この教会の会員は、この力を託され、保持しています。この力をもってすれば、地上でサタンの影響力の多くを後退させることができます。わたしたちは、すでに世を去った人々、今生きている人々、これから生まれてくる人々のために、この力を託されているのです。

わたしたちが主に仕えることに献身し、悪魔を怒らせることを心配しないよう、願っています。わたしは、義を広めることで破壊者の悪の手が押しとどめられ、全世界にそののろいがかけられないように祈っています。また神がわたしたちの弱さを、欠点、足りないところを赦し、過ちをも赦してくださるよう願っています。悲しみ苦しんでいる人々に慰めが与えられ、打ちひしがれている人々に安らぎが与えられるように祈っています。□

ホームティーチャーへの提案

1. 主はこう言われた。「だれも、ふたりの主人に兼

ね仕えることはできない。……あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。」(マタイ6:24)しかし、今日多くの人々が、二人の主人に兼ね仕えようとしている。

2. 多くの人々は、様々な面でうぬぼれ、思い違いをしている。自分たちは主に仕えていると思い込んでいるのだ。しかし、彼らは悪魔を怒らせることもその教えや習慣を遠ざけることもなく、主に仕えようとしている。

3. しかし、ルシフェルの力から身を守る強力な盾がある。それは聖霊の賜物を通して与えられる識別の力である。

4. 聖霊の賜物は、主の戒めを守り、生ける預言者の勧告に従おうと努力する人々に、天から直接与えられる。

5. わたしたちが許さなければ、サタンはわたしたちに対して力を振るうことはできない。使徒ヤコブはこう勧告している。「神に従いなさい。そして、悪魔に立ちむかいなさい。そうすれば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう。」(ヤコブの手紙4:7)サタンは義人の心を支配する力を持たないのである。

6. 祈りと断食は、義にかなった生活を送るための道徳的、霊的な力を与えてくれる。この方法は、昔から多くの人々により実証されてきた。

注

1. 「オーロラ・リー」7:105
2. 「リア王」第3幕第6場18行
3. ジョセフ・F・スミス『福音の教義』p.359
4. *Discourses of Brigham Young* 「ブリガム・ヤング説教集」ジョン・A・ウィットナー編、p.257
5. アルマ5:40
6. 2コリント2:11
7. "The Price of Peace" *Speeches of the Year* 「平和の代価」 「年度講話」1955年3月1日
8. マタイ6:24
9. *Conference Report* 「大会報告」1962年10月号、p.94
10. 「大いなる偽り者」 「聖徒の道」1988年1月号、p.36
11. カル・トーマス "Mother Teresa Has Anti-Abortion Answer" *Salt Lake Tri-*

- bune* 「マザー・テレサ、墮胎に異議を唱える」 『ソルトレーク・トリビューン』1994年2月15日付け、p.11
12. 同上
13. 同上
14. 同上
15. 創世1:28
16. マルコム・S・フォーブズ・ジュニア "The True Character of Health Care Reform" *Forbes* 「健康管理改善計画の本質」 『フォーブズ』1994年9月12日号、p.25
17. スチーブン・パディアンスキー "10 Billion for Dinner, Please" *U.S. News & World Report* 「10億人分のディナー」 『U.S. ニューズ・アンド・ワールド・リポート』1994年9月12日号、pp.57-62
18. 教義と聖約104:17
19. 2ニーファイ28:21-22

20. 「悪魔の手紙」新教出版社、森安綾・蜂谷昭雄訳、p.85
21. *Discourses of Brigham Young* 「ブリガム・ヤング説教集」ジョン・A・ウィットナー編、p.410
22. 「尊く、大いなる約束」 「聖徒の道」1995年1月号、p.9
23. *Conference Report* 「大会報告」1958年4月号、p.115
24. ヤコブの手紙4:7
25. 1ニーファイ22:26
26. *Teachings of the Prophet Joseph Smith* 「預言者ジョセフ・スミスの教え」p.181
27. *History of the Church* 「教会歴史」4:576
28. 教義と聖約88:67
29. *Conference Report* 「大会報告」1966年4月号、p.39

物 心ついてからというもの、わたしは祝福師の祝福の大切さを繰り返し聞かされてきました。それで17歳になったとき、祝福を受けることを考え始めたのです。

祝福師の祝福を受けるのは、わたしには少し怖いことでした。もしわたしに聞きたいと思っていることを何も聞くことができなかつたらどうしよう。わたしには何もすばらしい約束が備えられていないかもしれない。そんな思いのほかに、祝福を受ける準備が十分でないかもしれないという心配もしていました。

そこでわたしは、信仰を形に表さなければ、と考えました。何度も祈り、監督から面接を受け、ステーキの祝福師と祝福を受けるための約束を作りました。それから、その日が来るのを待つ間、この重要な出来事のために霊的に備える努力をしました。

祝福を受ける当日は、一日中断食をしました。朝には、きつとすばらしく霊的な日になるだろうと思っていたの

ですが、きつとサタンが、惨めな日にとしようと特別熱心に働きかけたのでしよう。学校で嫌なことがあって、家に帰るころには心が乱れていました。家の中を行ったり来たりして歩き回ったものです。

そのとき、日ごろ尊敬している夫婦があるファイヤサイドで、「祝福師の祝福に備える」というテーマで話したことを思い出しました。二人は、特に知りたいと思っていることについて、具体的に祈るように勧めたのです。

わたしは自分の部屋に戻り、ベッドのわきにひざまずいて、天父がわたしにとっていちばん必要だと思っておられることを知らせてください、と祈りました。そして、恐れが消え去り、心配で震える心に平安が与えられるように祈ったのです。

何もかもすばらしい結果となりました。実際、これはわたし個人に与えられた奇跡といってよいと思います。祝福師が、わたし以上にわたしのことをよく知っているように感じました。彼

が天父に代わって話しているのを知っていましたし、祝福の言葉を語っているときに、天父が確かにわたしを知っておられると確信することもできました。神はわたしの祈りをちゃんと聞いてくださっていましたし、わたしの名を御存じでした。

祝福師が祝福を終えたとき、わたしは自分が好きになっていました。あんなに霊的に深い印象を受けたことは、それまでありませんでした。

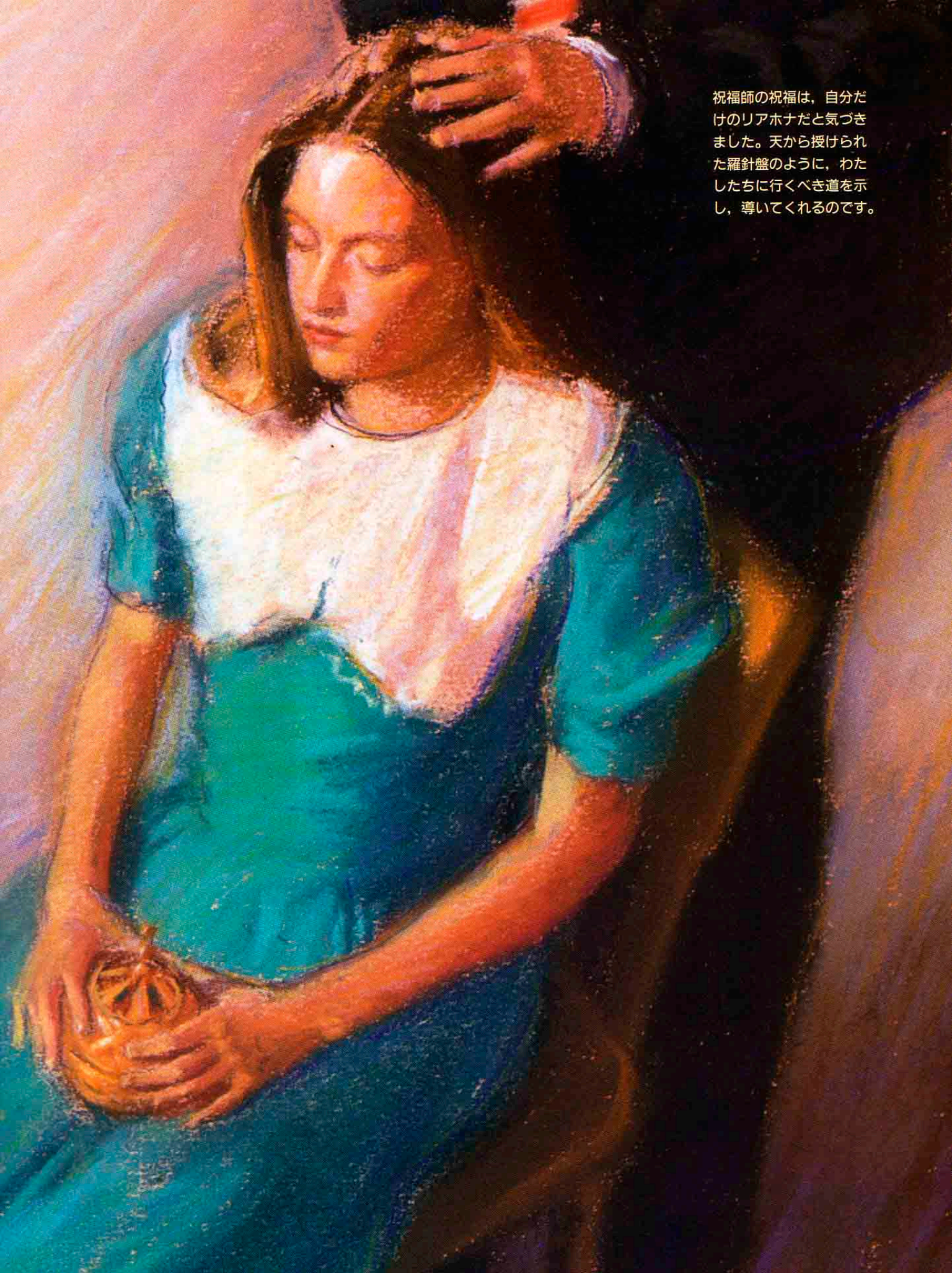
今では、なぜ教会の指導者が祝福師の祝福の貴さをこれほど強調するのか理解できます。わたしたちは、価値あるものを見つけ、それを手に入れるために代償を払うとき、その価値をさらによく理解することができるのです。祝福文と、それを受けたときの経験は、わたしにとって人生で最も貴重なものの一つとなっています。

祝福師の祝福は、その約束が成就するよう、これからもわたしを導き続けてくれることでしょう。□

レベッカ・ローズ

ILLUSTRATED BY ALLAN GARNES

わたしの奇跡



祝福師の祝福は、自分だけのリアホナだと気づきました。天から授けられた羅針盤のように、わたしたちに行くべき道を示し、導いてくれるのです。



ジェラルル・ ジロー・カリエ夫妻

常に新たな出発を

バーバラ・ワークマン

その宣教師たちは、通りの向こう側にいた若い夫婦が、時間を取って自分たちと話してくれる見込みなど、まずないだろうと思っていました。ジェラルル・ジロー・カリエとアニー・ジロー・カリエ夫妻はそのとき、夜の映画館へ急いでいるところでした。しかし宣教師たちはその夜、夫妻を見かけ、話しかけてみることにしました。するとこの若いカップルは立ち止まってじっくり話を聞いてくれただけでなく、その週のうちに自宅を訪ねることも承諾してくれました。

ジェラルルとアニーは最初のレッスンを受けた後、バカンスで、フランスのトゥールーズから10キロほど離れた小さな村にある自宅を3週間留守にしました。ところが、バカンスから戻る前に、長老たちは転任していて、二人がその宣教師たちからレッスンを受ける機会はなくなってしまいました。それから2、3か月後、1968年の10月末近くになり、新しくやって来た宣教師が記録の中に二人の名前を見つけ、レッスンを再開しました。

当時トゥールーズ地域の地方部長は

クロード・トゥール兄弟でした。トゥール夫妻はジェラルルとアニーと親しくなり、二人をパーティーに招いたり、宣教師とのレッスンには毎回出席したりしました。トゥール兄弟姉妹は、二人が教会員になったときに求められる責任を理解できるように助けました。その結果、ジェラルルとアニーは主とその御業に対する確信を得、レッスンを始まってから4週間後にバプテスマを受けました。

ジェラルルはこう話しています。「最後の判断材料になったのは救いの計画でした。前に聞いたことがあるような教えでした。ジョセフ・スミスについては好感情を持ちました。わたしたちはその教えが正しいと確信しました。」教会の会員たちは二人を心から歓迎しました。そのころ支部では特別プログラムとして劇の上演の準備を進めていました。支部の全員が何らかの役で参加していました。ジェラルルとアニーも練習のために毎晩のように教会に通いました。「教会員生活の出発として、ほんとうにすばらしいものでした。」



下—アニーとジェラルド（1995年）。
左ページ—ベルサイユ支部の支部長
時代、家族とともに（1971年）。





ジェラルールは間もなく支部の書記に召されました。そして、地方部の書記、副地方部長の責任を受けていきました。アニーは日曜学校の求道者クラスの教師に召されました。ジェラルールは次のように話しています。「妻にとって、それは主の御霊の導きに従うことを求められる最初の経験でした。彼女にあるのは、ジェームズ・E・タルメージ長老の『信仰箇条の研究』だけでした。教師として何をすべきかについては、ほかには何の助けも、教育もありませんでした。御霊に頼るしかなかったのです。」それから何年も過ぎた今、彼女が毎日の生活の中で豊かに御霊の導きを受けていることは、はた目にも理解できます。

ジェラルールとアニーが出会ったのは、お互いに大学で土木工学の学位を目指して勉強しているときでした。やがて二人は結婚し、在学中に最初の子供が生まれました。卒業後、ジェラルールは

兵役義務を終える必要がありました。それでアニーが生活費を得るために働きました。

ジェラルールは当時のことをこう話しています。「アニーが働いている間に、子供たちの世話は育児婦にお願いしていました。状態は決して悪いものではありませんでしたが、やはり母親がそばにいないのでは違いました。わたしが軍務を離れて家にいたわずか1か月の間に、彼女は預言者の勧告に従って、家庭に戻る日をそれ以上遅らせるべきではないと決心しました。彼女がその決意を伝えたときの子供たちの喜びようは今も忘れられません。一人の息子は、その日から母親が仕事をやめる日までの日数と同じ数だけ石を集めました。そして1日に1個ずつその石を捨てていきました。

「アニーは一度も自分の決断を後悔したことはありません。彼女は7人の子供たちにとってすばらしい母親であ

り、わたしにとってはすばらしい助け手でした。彼女はまた、地域社会で、特に子供たちの通っている学校の父母の会で奉仕してきました。」

アニーとジェラルールはいつも、心に残る方法で子供たちに福音を教えようと努力してきました。バプテスマの1年後、二人の子供たちがそれぞれ2歳と3歳だったとき、彼らは家族として結び固めを受けるために神殿に参入する準備をしました。二人は家庭の夕べで、神殿で結び固めを受けることの意味を説明しました。それぞれの家族を象徴する4本のマッチの棒を持つと、それをテーブルの上に落としました。もちろん、4本のマッチ棒はばらばらに散らかりました。そして、もし自分たちの家族が死によって分けられてしまえば、これらのマッチ棒と同じようになってしまうことを説明しました。次に、マッチ棒を糸で縛ってまたテーブルの上に落としました。しかし今度

は一つにまとまったままでした。子供たちは、結び固めはそれと同じようなものであり、自分たちが戒めに従い、一つの道を進むなら、この世のいかなるもの、たとえ死でさえも、彼らを引き離せないということを教えられました。

3歳のクリストフの心には、このレッスンは非常に印象深いものとして残り、彼は皆で神殿に行ける日が待ち遠しくて仕方ありませんでした。やがてその日が来て、二人の子供は真剣な面持ちで、両親とともに結び固めの部屋へ入りました。儀式はすばらしいものでした。しかし家族4人がそろって神殿を出るときに、思案顔の一人の子供が、今にも泣きだしそうな顔をしながら尋ねました。「でもお母さん。あの人たち、ぼくたちをいつ糸で縛ってくれるの。」神殿の結び固めについてのレッスンはその後すぐに始められたのは言うまでもありません。

バプテスマから2年後、ジェラルドは土木関係の仕事に就きました。そして、その2か月後には、ベルサイユ支部の支部長に召されました。パリに住んでいたときに、ジェラルドはひどい髄膜炎にかかってしまいました。医師

は彼に、背骨から体液を採る手術が必要なことを話しました。ジェラルドはホームティーチャーに頼んで神権による祝福を施してもらい、癒いよされました。危険な手術を受ける必要がなくなったのです。

バプテスマから7年目の1975年11月に、ジェラルドはフランスで最初に組織されたフランス・パリステーキのステーキ会長に召されました。そしてその3年後に、二人の生活は大きな転機を迎えました。ジェラルドは自分が勤めていた会社の中で行われていた不正行為のことで心を痛めていました。そして、別の仕事を探し始めたのです。当時、教会のフランス、イタリア、スペイン、ポルトガルの地域を管轄していた配送センターがフランスのグルノーブルにあり、購買部の部長の責任を果たす人を必要としていました。しかし、ジェラルドがその仕事に就くにしても問題がありました。ステーキ会長の責任を解かれ、前よりも低い給料という条件で、グルノーブルへ引っ越さなければならなかったのです。

ジェラルドは十二使徒定員会会員との面接のときに、いかなる勧告が与え

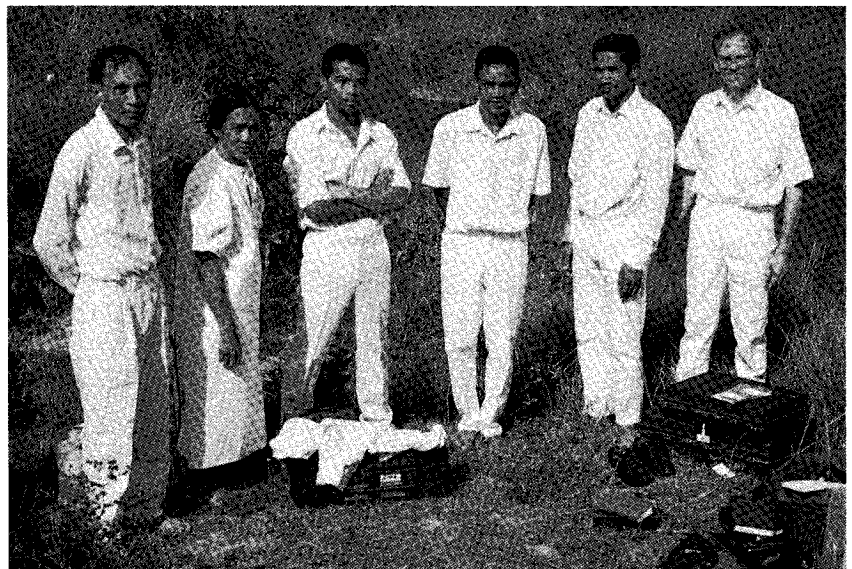
られようとも喜んでそれに従うという気持ちを述べました。彼はこう話しました。「ステーキ会長の責任を解任されなければ、引っ越しするつもりはありません。会社に辞表は出していますが、ここにとどまって別の仕事を探します。1年分の貯蔵食糧がありますので、何とかかなると思います。」

彼はステーキ会長の任を解かれ、グルノーブルでの仕事を引き受けました。新しい家を建てている間、一家はしばらくジェラルドの母親と一緒に暮らしました。約1年半が過ぎて、新居が完成間近になったころ、ジェラルドはパリの近辺に配送センターの移転先を見つけるようにとの指示を受けました。結局、移転先をトルシーに見つけることができましたが、ジェラルドの家族はグルノーブルの新居には一日も暮らすことなく、また住まいを変えたのです。しかし、グルノーブルで過ごしたその間に、彼は地方部長の責任を受けて働きました。

パリで彼は地区代表に召されました。アニーはその当時の一つの体験を回想して次のように話しています。「夫は週末はステーキ大会への出席で家を留

左ページ——インド洋のマスカリン諸島伝道部の伝道部長時代（1988年）。この年の9月にジェラルドとアニー（中央）は本部のあるレユニオン島で開かれた宣教師のゾーン大会に出席した。

右——マダガスカル島の最初の5人の改宗者とともに。



守にすることがしょっちゅうでした。あるステーキ大会が開かれる土曜日の朝、とても早い時間に目覚まし時計のベルが鳴りました。わたしは半分寝ぼけ眼でしたが、ジェラルムがベッドの所にひざまずいて祈っているのに気づきました。彼は立ち上がると、『気分はどう』と聞きました。『いい気分よ』と答えると、ちょっとしてから彼は、その日のわたしの予定を聞きました。そして、いろいろと質問を続け、自分の出発を遅らせた方がよくはないかとまで尋ねてきました。一体彼が何を考えているのか見当が付きませんでした。そのときまでにはわたしも目が覚めていて、体を起こそうとしました。ところがベッドから起きようとすると、ひどいめまいで立つこともできませんでした。夫はわたしの具合がよくなるまで、2、3時間出発を遅らせました。彼が聖霊のささやきによく耳を傾けることにいつも感謝しています。』

1988年にジェラルムはマスカリン諸島（インド洋西部にあるフランスの海外県）の新設伝道部を管理する責任に召されました。この伝道部の本部は

レユニオン島に設置されました。7人の子供のうち3人を連れて現地入りしたジェラルムとアニーは、住まいと事務所といっても、それが古いタイプライターのほかにはほとんど何もない宣教師のアパートであることを知らされました。彼らはとりあえずそのアパートに荷を下ろして働きを始めました。アニーは宣教師としての自分の役割をすぐに受け入れました。ジェラルムの話によるとこうです。「ある日、彼女は父母の会で顔見知りの婦人にスーパーマーケットで会いました。その女性は前からアニーのことが強く印象に残っていましたが、彼女の胸の名札についてあえて尋ねたことはありませんでした。その店で彼女はアニーにそれについて質問しました。そして1か月後には、バプテスマを受け、次の年には神殿でエンダウメントを受けました。」

1991年に一家が伝道を終えて帰還して来たとき、ヨーロッパ・地中海地域が組織され、フランスのトワレに本部が置かれました。ジェラルムはそこへ移って、資材管理部の事務所を開設するよう要請を受けました。

1993年11月に彼はスイス・ジュネー

ブステーキの祝福師という現在の召しを受けました。アニーはジュネーブステーキのジュラワードの扶助協会会長の責任を受けました。扶助協会会長の責任はそれが3度目でした。彼女はまた、これまで若い女性と初等協会の組織でもステーキとワードの会長会で責任を果たしています。そして年長の3人の子供も専任宣教師として働いてきました。

映画館の前で二人の宣教師に会ってからの25年を回想して、ジェラルムはこう話しています。「これまで教会で経験してきたことを振り返ると、わたしたちはいつも新しいことに取り組んできたように思えます。受けてきた責任も未経験のものでした。新しいステーキ、新しい伝道部、教会の新しい地域での新しい部門を管理する特権を与えられてきました。恐らく、今度の祝福師という召しで、新しい責任を受けるのは終わりだと思います。」

そうかもしれません。しかし、その開拓者精神を考えると、ジェラルムとアニーの前途にはまだまだ多くの新たな出発が待ち受けているように思えます。□



6人の子供とともに（1995年）。これまで3人の子供が結婚し、6人の孫に恵まれている。7番目の子フランコは現在イギリスで専任宣教師として働いている。

ママの足跡



ダビダ・ダルトン (ジョレーン・ジョンソンに語られた話)

PAINTING BY CARL HEINRICH BLOCH

カリフォルニア州コスタメサにあるわが家での、ある忙しい1日のことです。といっても当時は10人の子供たちを抱え、さらに一人がおなかの中にいたため、実は毎日が目の回るような生活でした。しかしその日は特に、いつもの仕事にさえ手間取っていました。すべて一人の男の子のせいです。

わたしがどこへ行っても、当時3歳のレンが、ぴったりと後ろをついて来るのです。何かをしようと立ち止まり向きを変えると、その度にわたしは彼にけつまずきようになります。彼が熱中できそうなほかの遊びをするように、忍耐強く何回か言ってみました。

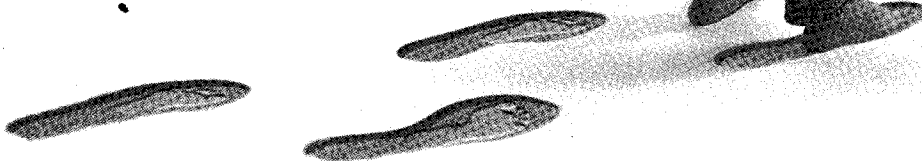
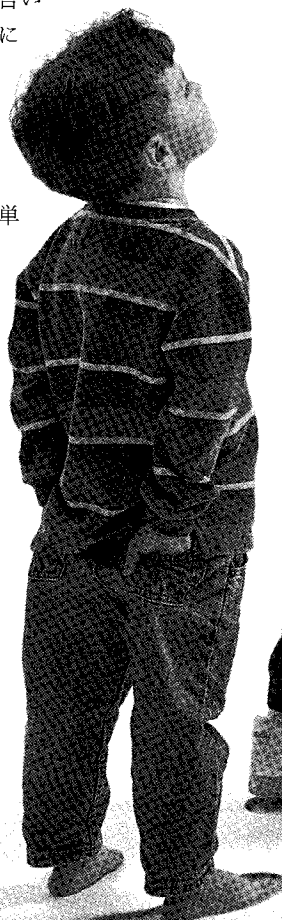
「ぶらんこで遊んでみない。」もう一度尋ねてみました。ところが息子は無邪気にほほえむだけで、「いいんだ。それよりママと、ここにいる方がいいよ」と言って、楽しそうに跳びはねながら、わたしの後ろをついて来ます。

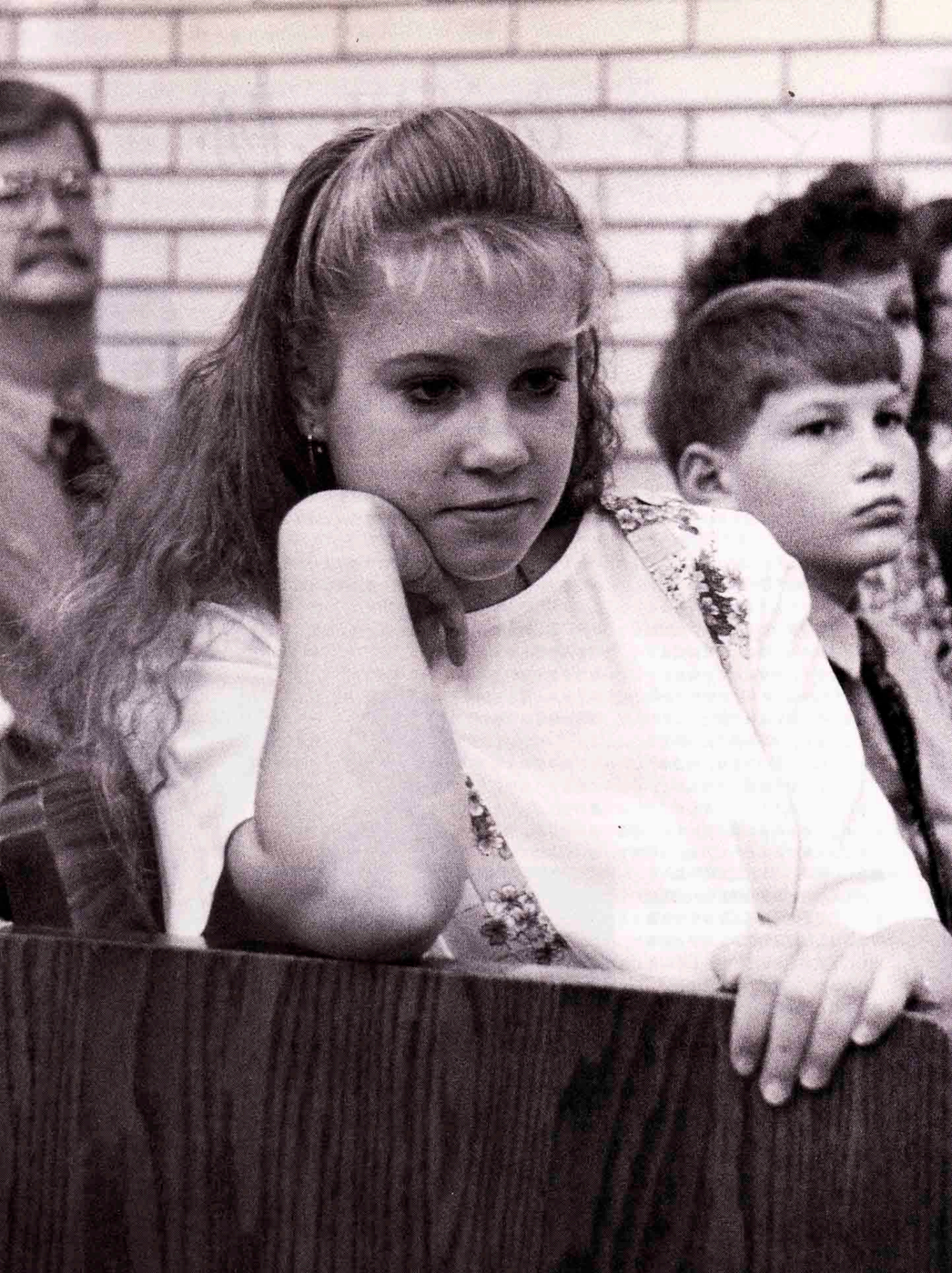
わたしはレンのつま先を5回ほど踏んでから、ついに堪忍袋の緒が切れました。外に出て、ほかの子供たちと遊ぶように命じました。なぜそんなことをするのかと問いただすと、息子は愛らしい緑色の目でわたしを見上げ、こう言います。「あのね、ママ。プライマリーで先生が、イエス様の足跡に倣って歩くように、って教えてくれたんだ。ぼくにはイエス様が見えないから、ママの後ろについて歩くんだよ。」

わたしはレンを引き寄せ、腕の中でしっかりと抱き締めました。あふれる愛と謙遜な気持ちから、心の中の祈るような思いとともに、涙が込み上げてきました。それは3歳の子供が示した、単純でありながら高貴な概念に対する、感謝の祈りでした。息子の言葉は、母親であるわたしの大切な役割を、思い出させてくれました。

わたしが子供たちと救い主とを結びつける、大切な役割を担っていることを知ると、身の引き締まる思いがします。しかし同時に、母親は神のパートナーであり、自分は主の導きを受けられる立場にあることが分かり、心に喜びを感じています。神はわたしたちをほんとうに心にかけ、わたしたちすべてが救い主の示された足跡に倣って歩くよう望んでいらっしゃるからです。

□





わたしは、御^み霊^{たま}を感じたことはありません。 何か間違っているのでしょうか。

教会の話の中で、「今日、この場には御^み霊^{たま}が満ちあふれています」といった言葉を聞くことがあります。でも、わたしは、そういう気持ちを感じたことが一度もありません。彼らは、ただ想像で言っているだけなののでしょうか、それとも御^み霊^{たま}を感じないわたしが間違っているのでしょうか。

本誌の答えは、問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

回 答

まず、定義づけをしなければならぬ事柄が幾つかあります。その一つは、御^み霊^{たま}について語る人がよく口にする特別な気持ちというのは、ほとんどの場合、聖^{せい}霊^{れい}の現れを指すということです。

聖^{せい}霊^{れい}とは、「福音の真理を確信させる神の力」です（*Encyclopedia of Mormonism* 『モルモニズム百科事典』 p.649）。換言すれば、聖^{せい}霊^{れい}は、天父と御^み子^こが神^{あかし}聖^{せい}な存在であり、福音が真実であることを証してください。バプテスマを受けた後、もし、ふさわしく生活するならば、いつでも、聖^{せい}霊^{れい}がわたしたちとともにいてくださいます。

聖^{せい}霊^{れい}がともにいてくだされば、ある人の言った言葉が真実かどうか分かります。救い主はこう言われました。「汝^{なんじ}ら必ず受^うくべきを信じて、信仰を以てわが名により御^み父^{ちち}に願^{ねが}うべし。さらば、人の子らの為になるすべての事を示す聖^{せい}霊^{れい}を受^うくべし。」（教義と聖約 18：18）

聖^{せい}霊^{れい}がともにいてくださるときの状態がどのようなものなのか知るには、ある程度の経験が必要です。南アフリカのケープタウン伝道部で、宣教師として働いているセリア姉妹はこう語ります。「御^み霊^{たま}を感じているときには、いつでも胸に温かいものを感じているのかというと、必ずしもそうではありません。御^み霊^{たま}のもたらす実は、『愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実』（ガラテヤ5：22）です。話し手の提示している話題が何なのか理解できましたか。聞いた内容について、よい気持ちを感じましたか。その勧めを聞いたときに、すぐに従いたいと感じましたか。御^み霊^{たま}の力というのは、否定できないほど強く感じることもあるでしょうが、たいていの場合は、はっきりこれと気づくことのない、静かなさやきとして感じられるものです。」

話し手の語っていることがほんとうだと感じたなら、しばらく立ち止まって、どんな気持ちを感じているか自問してみてください。心地よさを感じる人がいるかと思えば、温かく浮き立つような気持ちを感じる人もいるかもしれま

せん。涙が出て来る人もいるでしょう。その涙は、喜びの涙です。御^み霊^{たま}の感じ方は、人によって違います。

御^み霊^{たま}が真理について証するのを感じる度合いは、自らが敬^{けい}虔^{けん}になり、話し手に細心の注意を払えるかどうかでかなり違ってくる、回答者の多くが語っています。次に紹介するジャーニソン・ティシェイラ・デ・オリベイラも、そのような読者の一人です。

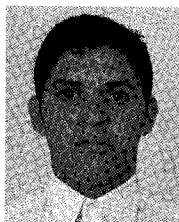
読者からの提案

わたしは、以前には、集会中に御^み霊^{たま}を感じられませんでした。ですから、自分には何か問題があるのではないかと思っていました。そんなとき、自分のワードで働いている専任宣教師に同行する機会がありました。わたしにとって、そのときの状況というのは、理想とほど遠いものでした。いつものように銀行での務めを終えた後で、わたしはうだるような暑さの中を、自転車車で求道者の家へ向かいました。

最初の訪問では、宣教師のレッスンに耳を傾けるだけでしたが、2回目の訪問では、わたしもメッセージを伝える機会があり、それまでに感じたことのないような御^み霊^{たま}を感じました。ほんとうにすばらしい気持ちで、涙が出るほどでした。

帰宅する途中で、どうしてそれほど強く御^み霊^{たま}を感じたのか、その理由を分

析してみました。わたしが到達した結論は、レッスンの内容に興味を持ったからではないかということでした。それ以来、わたしは集会中に話し手の話す内容に興味を持つよう努めました。そのメッセージに没頭し、内容に集中するときに、御霊がともにあることを感じました。



ブラジル・ブラジリア伝道部
ロンドノポリス・アウーロラ支部
ジャンルソン・テイシェイラ・デオリベイラ(21歳)

わたしは、だれもが毎日御霊を感じているとは思いませんが、祈ったり、聖文を学んだり、教会の召しを忠実に果たしたりすることによって自分を整えるなら、ほとんどの集会で御霊を感じられると思います。

話し手の言葉をノートに記録すれば、話の内容に集中できるだけでなく、自分の子供たちや子孫に霊的な記録を残すこともできます。



韓国、光州ステーク、忠壮ワード
パクユンミ
朴有美

わたしは、毎週日曜日、とても特別な集会に招かれていることに感謝しています。わたしたちは、この集会で一緒に主を賛美する歌を歌い、主の愛と犠牲を思い起こし、主の聖餐にあずかり、主に対する希望を培っています。

このような条件の下で、「教ゆる者も受くる者も互いに相悟り、両者共に徳に導かれて共に悦ぶ」ことができるのです(教義と聖約50:22)。



ブラジル、ジャルディン・パウリシュタ
アーレテ・アパレシダ・アレシャンドリ

御霊の存在を感じられるように備えるのは、個々の会員の責任ですが、助けを受けることはできます。そのためには、毎日の生活の中で、救い主を最も大切な御方としてください。主の戒めに従った生活を送り、主の預言者と教会の指導者の勧告を受け入れることです。そうすれば、常に御霊の導きを受けるふさわしさを維持できます。

日曜日はいつも聖なる日でなければなりません。教会員の中には、聖餐会に出席したくても出席できない人がたくさんいます。集会に出席している兄弟姉妹を見て、喜びを感じましょう。主の王国をこの地上に築くという目的とともに働くとき、どれほどすばらしい人間になれるか、目の当たりにすることができます。

ハンガリー・ブダペスト伝道部
ケチュキメイト支部
アニコ・ナジ(21歳)

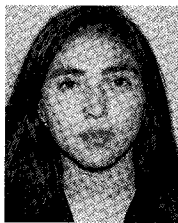
問題は、話し手と聞き手のいずれか、もしくはその両方にあると考えられます。話し手がきちんと準備していなかったかもしれませんし、聞き手が話に集中してなくて、ほかのことを考えていたかもしれません。

わたしたちは、レッスンや話を準備するとき、導きを祈り求めなければなりません。また、聞き手は話されている内容に、自分の心の波長を合わせられるように祈らなければなりません。こうしてこそ、天父の準備して下さった主の聖餐を、十分に満喫できるようになるのです。



チリ、ヴァルディビアステーク
バイヤコ支部
ハイマ・エンリケ・コレリア・アルヴァレス(18歳)

かつてわたしは、教会で騒ぎ立てる子供やささやき声で話す人の声に気が散って、いらいらしていました。ある日曜日のこと、わたしは、話し手と心を合わせ御霊を感じることができるよう熱心に祈りました。話の内容に心を注ぎました。するとなぜか普段と違って気が散らなくなったのです。話し手の語るメッセージに信じられないくらい引き込まれてしまい、閉会の祈りがささげられている間も、ずっと涙が止まりませんでした。その日、わたしはほんとうに大切な教訓を学んだのです。



チリ、チャンスステーク
マリア・エスピノザ・アルヴェイアル

毎日の生活で御霊がともにあるのを感じるのには、ラジオ放送を聞くことに似ています。放送をきちんと聞くには

波長が合わなければなりません。同じように、御霊を感じるためには、イエス・キリストの福音の原則に波長を合わせなければなりません。

ラジオの電波と同じように、御霊も、波長の合わせ方次第で、わたしたちの心に入ったり、逆に、出て行ったりします。主は「人は聖霊を受くこともあらん」と言っておられますが、「彼と共に永く留りたもうことはあらず」（教義と聖約130：23）という勧告も残していらっしやいます。

ベネズエラ・マラカイボ伝道部
サンアントニオ支部
エドガー・ロメロ・ピヤミザール

御霊の声に耳を傾け、御霊を感じられるように、集会の始まる前に教会に到着し、問題はひとまず忘れ、救い主の偉大な愛を思い起こし、心と精神を整えましょう。



グアテマラ・グアテマランティー、エル・モリノステーク、エル・キンタル支部
ロサ・エウヘニア・モラレイス
(16歳)

御霊を集会中に感じないからといって、その場に御霊が存在しないわけではありません。救い主が、この地上で働らいておられたときに、何千人という人たちがともにいたと、聖文に記されていることを忘れないでください。その人たちは、主が教えを授けられたのを耳にただけでなく、主の行われた奇跡を目撃しました。それにもかかわらず、主を救い主として認めることができなかつたのです。

あのすばらしい思い、御霊が確かにともにあるという気持ちは、信仰、訓練、敬虔な心、そして「誠心誠意」打ち込む姿勢（モロナイ10：4）を通して、勝ち得るものです。



ブラジル、ブラジリア・アルボラダステーク、ブラジリア北ワード
12-13歳クラス

自らの生活の中に御霊の入る余地を作るために、内面的な変化を経験しなければならない人がいます。例えば、このわたしも10代のときには教会の集会で御霊を感じる事ができず、一体何のためにその場にいるのか分かりませんでした。しかし、結婚して母親となったことで、愛や思いやりの気持ちをはぐくみ、天父に対する証を強め、その結果、愛と思いやりの御霊を、よく感じられるようになりました。



ドイツ、ノイムーンステークランゲンホルンワード
アレクサンドラ・ジーフェルス (22歳)

時として、わたしたちは日々の問題にとらわれて、教会で話される話に十分な注意を払えない場合があります。その結果、御霊の存在も感じられなくなってしまうのです。教会で集会やレッ

スンが行われている間は、そこで話される内容に常に精神を集中し、ほかのことは考えないようにしなければなりません。

ブラジル、カンピナス・カステロステーク、バラオ・ヘラルドワード
イバン・デ・グースマオ・アポロニア
(20歳)

下記の質問に対する皆さんの意見をお待ちしています。締め切りは1995年12月1日です。あて先は下記のとおりです。

QUESTIONS AND ANSWERS

International Magazines
50 East North Temple Street
Salt Lake City, Utah 84150
U.S.A.

氏名、住所、年齢、所属ステーク／地方部、ワード／支部名を明記のうえ日本語で意見をお寄せください。こちらで翻訳いたします。手書き、ワープロ、いずれでもけっこうです。できれば写真を同封してください。ただし返却は致しかねます。答えがとても私的な内容であるため、匿名を希望される場合はその旨を明記してください。お便りがすべて採用されるとは限りません。あらかじめご了承ください。

質問——神を冒瀆する言葉を、毎日、学校やそのほかの場所で聞きます。わたし自身は口には出しませんが、そのような言葉を頭に思い浮かべることがあります。どうしたら、心の中から、そのような悪い言葉を一扫できるでしょうか。□

このうちで最も大いなるもの

サラ・クエステル

老人病院で行われた^{せいさん}聖餐会で、わたしは出席したお年寄りたちを見渡しなが、落ち着かない気持ちになりました。居眠りしている患者もいれば、「うちに帰りたい」と泣きじゃくるおばあさんもいるし、目は開けていてもほとんどの人は、うつろなまな

ざしでぼんやり一点を見詰めている、といった具合だったからです。わたしたちのワードの若い男性と若い女性は、何のためにわざわざ一緒に出席しているのでしょうか。ここにいる年配の教会員たちのために聖餐式の手伝いをするのは、そんなに価値あることでしょうか。

一人の若い男性が司会をしていました。その聖餐会のごく一般的なもので、開会の賛美歌、聖餐のパス、話者、閉会の賛美歌から成るものでした。

ところが、「恐れず来たれ、聖徒」を歌っているとき、あるきゃしゃな体つきの姉妹の様子に、はっとさせられました。歌が始まるまで、ぼんやりと宙を眺めていただけだった彼女が、歌詞を完全に暗記して歌っているのです。聖餐が回ると、ほとんどすべての患者が聖餐を取りました。皆何が行われているのか、ちゃんと知っているのです。

聖餐式に続き、ローレルのクラス会長であるショーナが、終わりまで堪え忍ぶことについて話をしました。彼女の言葉はこの年配の人々に一体どのように響いているのでしょうか。彼らは、わたしたちには想像もできないような試練を、堪え忍んでいるのです。

このときわたしは、部屋の中にある確かな力が注がれていることに気づきました。今までに感じたことのないほど、強く御霊を感じたのです。わたしは、老いた兄弟、姉妹のほぼ全員がショーナの話に注目していることに気づきました。御霊がわたしたち全員を兄弟、姉妹として、天父の子供たちとして、一つにつないでいました。

ある聖句が心に浮かんできました。「このように、いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである。このうちで最も大いなるものは、愛である。」(1コリント13:13)

この聖餐会の意義はいろいろとあるでしょうが、最も大きなものは慈愛、つまりキリストの純粋な愛なのです。

□



PHOTOGRAPH BY JOHN LUKE

「なお感謝し」

(『賛美歌』74番参照)

「神への感謝で心を満たしなさい。」(アルマ37:37)

イエスは、感謝の心と神を身近に感じられる心であると、模範によって教えられました。ラザロを死からよみがえらせる前、イエスは「目を天にむけて言われ〔まし〕た、『父よ、わたしの願いをお聞き下さったことを感謝します。』」(ヨハネ11:41) 7つのパンと小さい魚少しで4,000人以上の人々に食事を与える前にも、イエスはまず、神に「感謝し」ました(マタイ15:36参照)。十字架におかかりになるときを間近に控えて、イエスは最後の晩餐で杯を取り、その杯が御自分の血を流すことを象徴していたにもかかわらず、天父に「感謝し」ました(マタイ26:27-28参照)。

救い主は忘恩を嘆かれました。病を癒された10人のハンセン病患者のうち、たった一人しか感謝しに戻って来なかったとき、イエスはお尋ねになりました。「ほかの九人は、どこにいるのか。」(ルカ17:17) 末日に、イエスはわたしたちにこう言われました。「およそ人何事にも神を怒らせ……ることなし、たゞすべての事の中に神の御手

のあることを告白せず、その誠命に従わざる者に神の怒りあり。」(教義と聖約59:21)

わたしたちは感謝を通して 神の力を認められるようになる

感謝の心は、病を癒されたハンセン病患者がイエスのもとに戻って来たように、わたしたちの心を救い主に向けさせます。わたしたちは自分が神に依存していることを認めるときに成長します。また、高慢や利己心、人を赦さぬ心を消し去るキリストのような特性を身に付けるようになります。「すべての事に就きて、主なる汝の神に感謝すべし」(教義と聖約59:7) という勧告に従うことによって、わたしたちは天父がわたしたちに力を及ぼす方法に気づくようになるのです。

ある若い母親が3歳の息子のベッドのそばにひざまずき、息子の心のこもった祈りに耳を傾けました。兄のこと、雪や雲、ピザについて感謝するのを聞きながら、彼女は自分がそのような事柄について主に感謝したのは、いつのことだったろうかと考えました。そして、いつも天父に健康や家族、福音については感謝しているものの、自分自身の人生の何げない日常的で単純な祝福については見過ごしていたことに気づきました。これらすべての祝福に対して日々感謝を表すようになったとき、彼女は新たな目で世界を見られるようになりました。悲しみや苦しみは耐えやすくなり、霊的な糧を得られたのです(リサ・レイ・ターナー「感謝の歌」『聖徒の道』1993年6月号、pp.46-48参照)。

ロバート・D・ヘイルズ長老はこの

ように勧告しています。「祈りによって感謝とお礼の気持ちを表すのは、知恵と知識のすばらしい源、すなわち父なる神と御子にして救い主なるイエス・キリストへの信頼を示すことでもあります。」(「神の恵みへの感謝」『聖徒の道』1992年7月号、p.68)

感謝の心は霊的な成熟の表れである

祈りや証、会話、そして福音の実践などを通して度々表される感謝の心は、霊的な成熟の表れです。それは「真に感謝の念を持った人々に備わっていません。ジャカルタの大邸宅に住もうと、雨漏りのする家に住もうと、大勢の聖徒たちが豊かな人生を送っています。雨漏りのする家に住むある姉妹は、『雨が降ると台所で傘をささなくてはならないこともあります。二人の娘が期末試験でとても成績が良かったので〔天父に〕感謝しています』と述べています。」(イレイン・L・ジャック「Get a Life」Brigham Young University 1992-93 Devotional and Fireside Speeches 「すばらしい人生」『ブリガム・ヤング大学1992-93年度ディボーションナル・ファイヤサイド講話集』pp.47-55)

「およそすべてを感謝して受くる者には栄光を与えられん。」(教義と聖約78:19) このような約束を受けているわたしたちは、祈りの気持ちで次のように願うべきではないでしょうか。「さらに感謝する心をお与えください。」

●あなたはどのような祝福に感謝していますか。

●もっと感謝の気持ちを表すなら、家族関係はどのように改善されるでしょうか。□

ILLUSTRATED BY DILLEEN MARSH





主はわたしの力

アナ・ルゴボニ・ルズ

ブラジルで生まれ育ったわたしは、幼いころから偉大な事を成し遂げるのを夢見ていました。その反面、内気で自信がなく、自分には大したことはできないと感じていました。この引込み思案の性格のために、よく人から誤解されましたし、やろうとしたことのほとんどが失敗に終わりました。

年月がたつにつれ、自分を隠し、閉じ込めていた殻を何とか打ち破らねばという思いが次第に強くなっていきました。神がわたしに何かを期待しておられることは知っていましたが、それが何であるかは分かりませんでした。また、自分の無力さから抜け出す方法、道がきつとあるはずだと感じていながらも、どこでそれを見いだせるのか分かりませんでした。

結婚して二人の息子を授かり、道を見いださなければという不安はますます大きくなりました。今度は子供たちの将来についても考えなければならなくなったからです。子供たちは大きくなったらどんな大人になるのだろうか。わたしは彼らに何を教えてあげられるだろうか。わたしに教えられることといえば、幾度となく失敗を繰り返してきた引込み思案な人間の経験だけでした。

そして、運命の日が訪れました。末日聖徒イエス・キリスト教会の二人の宣教師がわが家の戸をたたいたのです。彼らから福音を学ぶうちに、より良い未来へと続く道が見えてきました。し

かし、それがほんとうに正しい道かどうかを見極める必要がありました。最初は夫が教会に入りたくないと言っていたため、決心するのはなかなか難しいことでした。それで宣教師から福音をひととおり学んだ後、バプテスマを受けるのはしばらく待つことにしました。しかし、教会の活動には参加し続けました。

それから2年後、長男が事故に遭い、人生がいかにはかないものか、永遠への備えがいかにか大切に思い知らされました。わたしの決意が固いのを知って、夫もバプテスマを受けることを決めました。こうして1976年6月26日、わたしたち4人はバプテスマを受け教会員となりました。

わたしはそれまで探し続けていた道をやっと見つけました。天父がおられ、天父がわたしに下さった才能を伸ばすように望んでおられることも知りました。わたしは多くの方々からの愛を受けていることに気づきました。彼らはあるがままのわたしを受け入れてくれ、わたし自身が人間として、母親として、妻として成長するにはどうしたらよいかを教えてくださいました。父なる神がわたしに何かをなすように望んでおられること、もう自分の殻に閉じこもってはいられないことを知りました。

わたしはだんだんと学び、成長していきました。教会でも幾つかの召しを果たしました。扶助協会を通して多くの事柄を学び、技能的にも霊的にも成

長する助けとなりました。ダンスや演劇、聖歌隊などに参加したり、活動を組織したり、何種類もの手芸を学んだりしました。そして今は音楽を勉強しています。

夫と息子たちも福音の中にあって成長し続けています。下の息子はブラジル・リオデジャネイロ伝道部で専任宣教師として働きました。わたしたち4人は全員活発にサンパウロのモジ中央ワードに集っています。

わたしはもうすぐ60歳になりますが、現在はステーキ扶助協会の教育担当副会長としての召しを果たしています。また、夫とともにサンパウロ神殿で働いています。内気な性格は今も変わりませんが、主の業を行うときには自分を隠すことはありません。

わたしの目標は永遠の命に備えることであり、そのために知恵と霊性の両面において成長し、才能を伸ばし、謙遜であるかと努めています。わたしはいつの日か天父のもとへ帰りたいと思います。そのときに、「常に成功したわけではありませんが、決してあきらめませんでした」と言える人でありたいと願っています。

わたしは何をなすときも常に、栄光は天父のものであることを忘れないつもりです。わたしの持てるすべては、天父から授かったものであり、また教会員であることによって得られたものだからです。□

10代の子供との対話

ウィリアム・G・ダイヤー

わたしが教えていたワード日曜学校の家族関係クラスでは、どうしたら10代の子供と意思の疎通が図れるかをテーマに話し合いました。クラスの参加者は全員10代の子供を持つ親でした。若い世代とのかかわりの中で最も深刻な問題は何かと尋ねると、いちばん多かったのは次の質問でした。「どうしたら息子や娘に、親と話をさせることができるでしょうか。心配事や悩みがあると分かっているけど、『どうかしたの』と尋ねると、『何でもない』とか『どうせお父さん（お母さん）には分からないよ』という答えしか返って来ないのです。」

クラスの親たちは、ほかにも様々な問題を指摘したのですが、「このような問題について一緒に話し合うことさえできれば、直面する問題にもっと効果的に対処できるように子供たちを助けてやれるかもしれない」というのが、全員の一致した意見でした。

コミュニケーションの道を開く

10代の子供たちのコミュニケーションを改善するために、親にできることはあるでしょうか。

まず親が自覚しなければならないのは、子供は、めったに自発的に親のところに心配事の相談に来たりはしないということです。クラスの親たちに、自分が10代のころに親に悩み事の相談をした人はどのくらいいるか尋ねてみると、手を挙げた人はごくわずかでした。その理由を聞くと、「自分も親も恥ずかしい思いをするんじゃないかと思ったから」とか、「親には分かってもらえないと思ったから」、あるいは「わたしの考えすぎだとか、きっと万事うまくいくよ、と言われるのがおちだ」というのが、そのおもな理由でした。

ある父親は息子に、「悩みがあるならどうしてお父さんに相談してくれないんだい」と尋ねたそうです。する

と息子は、「お父さんはおじいちゃんに相談しに行ったことがあるの」と逆に質問しました。

「いや、なかったね」と答えると、

息子は、「今も昔とあまり変わってないんだよ」と

分かち合いと表裏一体の関係にあるのが聴くことです。10代の子供がほんとうに話したい、理解してほしいと望むときは、親は「耳を傾ける」ときだと認識する必要があります。



PHOTOGRAPH BY KURT OLSON

言ったそうです。

10代の子供が親に深刻な問題を相談してくれないとすれば、親には何ができるでしょうか。よく使われる方法に、子供たちが「心を開く」ように働きかけるといふものがあります。心を開かせるために、「どうしてそんなに元気がないの」とか「今日学校で何かあったの」とか「テストの成績があんなに悪かったのはなぜ」というような、子供たちにはおせっかいと解釈される質問をするのが一般的です。

それよりはむしろ、自分の体験を分かち合う機会を見つけるアプローチの方がいいでしょう。子供たちはあまり口を開かなくても、親が試験に失敗したり、デートの相手がいなかったり、嫌いな数学の先生がいたり、パーティーに招かれなかったときにどう感じたかを話してやると、たいてい興味を持って聞いてくれるものです。ただ話して、分かち合うだけでよいのです。子供たちに皆さんのことを知ってもらい、皆さんの経験から学んでもらうのです。

クラスの二人の母親がこのアプローチを実践してみました。その結果は幾分違っていました。



母親の一人は、息子が学校のプロジェクトと、音楽プログラムの楽器の演奏に期待していたほどの結果を出せなかったことで悩んでいることを知っていました。それで、自分が悪い成績を取ったとき、どれほど惨めで落ち込んだか、また、結局いつもいつも完璧であることはできないという事実を認識するに至ったことを、機会を見つけて息子に話したのです。彼女は、息子の完璧主義は多分に自分譲りだということと、息子には自分より上手に過ちに対処できるようになってほしいと話したのです。息子は興味深そうに話を聞いていました。そして後で、「お母さん、ありがとう。あの話はすごく役に立ったよ」と言ってくれたのでした。

もう一人の母親も、息子に自分の10代のときの経験を

子供が小さいころからコミュニケーションの道を確立しておけば、子供は自分の経験や心配事、喜びを分かち合うことを自然だと思って成長していきます。

挙げて、時々両親や先生たちに分かってもらえないと感じたことがあったと、話しました。話し終わると、息子は「それだけ？」と聞きました。そうだと答えると、ほかに一言も言わずに部屋を出て行ったそうです。

この母親は、息子の反応を拒絶と解釈して、自分の言葉は息子に何の影響も与えず無駄だったと感じていました。わたし自身は、息子は母親が思う以上に強い印象を受けていた可能性があると感じました。少なくとも、最後まで話を聞いたのだし、母親が質問したり、お説教したりするときによくするように、むきになって腹を立てることもしなかったからです。

分かち合いと表裏一体の関係にあるのが聴くことです。コミュニケーションには、必ず話す人とその話を理解しようと耳を傾ける人が必要だからです。世の親は、「教える機会」をとらえる、という言葉をよく耳にしたことがあるはず。つまり、子供が学ぶことを受け入れる

用意があるという、ごくまれなときのことです。10代の子供たちが心から話したい、話を聴いてもらいたい、そして自分を理解してほしいと願うそんなときは、むしろ「耳を傾ける機会」と呼ぶ方が適切かもしれません。そんな時がやって来たら、親は口を閉じて静かに耳を傾けるべきなのです。

理解するのに必ずしも意見の一致は必要ではありません。学校が嫌いだとか、「いつも」友達がいないとか、弟には我慢できないなどと言う子供に、同意する必要はないのです。

話を聴き、「それで腹を立てているんだね」と言ってやることはできます。理解されていると感じる人は、それだけで世の中の見方が柔軟になり、問題に遭遇したとき、自分とは反対の意見に耳を傾けられるようになる傾向があります。

信頼の限界を押し広げる

両親と長年相互にかかわって生活していくうちに、10代の子供たちは信頼の限界、つまり話し合わなければならない問題を両親が適



切に処理するかどうかの信頼の限度というものを身に付けます。信頼の限界は、次のような質問に子供たちがどう答えるかに左右されます。両親は自分のことを分かってくれればと自信を持って言えるだろうか。両親は感情的——怒ったり、泣いたり——にならないと、また口を利かないなどの行動を取らないと、自信を持って言えるだろうか。また、話を終わりまで聞かないで結論を急いだり、恥ずかしい思いをさせられるような行動に走ったりしないだろうか。両親の方で話したいときだけでなく、子供の方で助けを必要としているときに時間を作ってくれるだろうか。

信頼によって愛がより多面的になることを知るのはいちばん大切です。親と10代の子供たちのほとんどは互いに愛し合っています。愛とは、相手の本来の姿に基づいて、親と子の別なく（できれば無条件で）生じるものです。しかし、子供が成長していく長い過程の中で、親が自分を意のままにしたり、侮辱したりしないことを理解していくに従って、子供の親への信頼は深くなっていくのです。愛が信頼に裏打ちされて拡大されていくとき、開かれたコミュニケーションが生まれる可能性が広がるのです。

それでは、どうしたら親として信頼の限界を押し広げることができるでしょうか。

信頼は信頼を生むものです。子供が信頼に足ると感じられるとき、親がそれを伝えることによって、両者の結びつきは強まります。

わたしのある友人は、40年も前の10代だったころの父親との経験を話してくれました。その友人はワイオミング州の小さな、大部分が末日聖徒の町で育ち、高校のバスケットボール部の選手をしていました。ある晩、バスケットボール部の選手が数人、問題を起こしたことがありました。後で父親は友人にこう言いました。「残念な出来事だったね。もしおまえがそこにいたら、きっとあんなことは起こさせなかっただろうに。」息子への信頼を表したこの言葉は、それまでにないほど父親への信頼の限界を広げてくれたと言います。それ以来、信頼を必要とする事柄について助言が必要となるときに、父親に相談するのが急に楽になったのでした。

子供たちは時々両親の信頼の限界を試すことがあります。実際の、あるいは仮定の問題を持ち出して、親がどう反応するか見ようとするのです。例えば、息子がこう言うかもしれません。「ぼくの知っているほかのワードの子が、伝道の召しを断ろうとしているんだ。その子の

両親はどうすると思う？」質問をしている本人の両親の答えによって、信頼の限界が、広がったり、変わらなかつたり、あるいは狭くなつたりするのです。

一緒に問題を解決する

10代の子供が信頼の限界を試しているときには、「問題解決アプローチ」という方法が有効です。子供が「次の学期はセミナーのクラスを取らないことにするつもりよ」と言ったとすると、両親は様々な応答の中から、自分の対応を決めることができます。「そんなことは絶対許さないよ」と命令口調で対応することもできます。感情的になることも、口論することもできます。もう一つの方法は、「問題解決アプローチ」です。「これはなかなか決断の難しい問題だってことはよく分かるよ。セミナーのどんなところに問題があってやめたいと思うんだい。」「問題解決アプローチ」という方法を使えば、感情的なバランスを崩すことなく、問題自体と、どんな選択の可能性があって、何がいちばん理にかなっているかということに焦点を当てることができます。こうすれば、子供たちは、親が問題の解決の手助けをしてくれると信頼するようになり、相談することで問題が ease 大きくなるのを恐れなくなります。

理想的な状況は、親が、子供の小さいうちからコミュニケーションの道を確認しておくことです。まず、子供たちの知りたがっている話をしてあげることから始めます。お父さんとお母さんがどういふふうに知り合って愛し合うようになったか。子供が生まれる度にどう感じたか。子供それぞれの長所と自慢できること。伝道の経験と家族の問題。そうすれば、親が子供たちに実際の体験を話すというパターンが作られます。このパターンのおかげで、子供が10代になって親が自分の体験を分かち合うときに、違和感を感じられないはずで

しかし、過去はどうであれ、どの時点にあっても親はコミュニケーションの道を開く作業を始めることができます。信頼に足る行動があったときには、子供への信頼を行動と言葉で表してください。根掘り葉掘り聞き出そうとせずに、経験を分かち合ってください。「問題解決アプローチ」を実践してみることもできます。何年も断絶したコミュニケーションの道を補修するには時間がかかるかもしれませんが、しかし、親にその意志があれば、そして、分かち合い、信頼する努力をする気があるならば、大きな祝福が待っているはずで

もはや異国人ではなく

ジョン・ネルソン・シュナイダー

ノバウンティフルに生まれ育ったわたしは、ユタ州以外の教会についてはほとんど何も知りませんでした。自分のワード以外の人にはだれでも、よそ者のように感じていました。それがアイルランドへ伝道に召されて初めて、教会が世界的規模の組織であることに感謝し始めたのです。特にある一つの経験を通して、教会の真の姿をつかむことができました。

わたしが14歳のとき、父は癌と診断されました。医師の見立てによれば、化学療法を行ったとしても、8年以上の生存率は50パーセントということでした。そのほかの療法はさらに望みの低いものだったので、父は6か月間にわたって毎週行われるこの治療に耐える決心をしました。

化学療法の終わりのころ、バウンティフルにあるわたしのワードでは父のために特別な断食をしてくれました。同じ目的のために一緒に信仰を表すことは、驚くべき経験です。治療も終わり、医師の診断書が戻って来たとき、そこには癌の兆候なしと載っていました。わたしが伝道に出た後も、父の手紙には、継続して快方に向かっており、マラソンにまで挑戦した経緯が書かれていました。事は万事うまくいっているかのようでした。

伝道が終わる前の夏に、わたしはコセ長老という宣教師とともに働いていました。彼はフランスのボルドーにある支部の出身で、そこはわたしがかつて「はるか向こうの伝道地」だと思っていた所でした。

ある朝、わたしは伝道部長のオフィスに呼び出され、父から電話が入ると告げられました。電話のベルが鳴る

と、伝道部長は席を外してわたしを一人にしてくれました。受話器を取り上げたとき、わたしは心配になりました。

父はわたしにあいさつの言葉を言ってから、癌が再発したことを告げました。父は再び、化学療法に取り組む覚悟でいました。その後わたしが母と話すとき、ワードのみんながもう一度断食してくれることを、母は教えてくれました。わたしもその断食に加わる旨を伝えました。電話を切ってから、わたしはこぼれる涙をぬぐって、オフィスを出ました。

任地に戻る途中、同僚のコセ長老に事情を説明しました。彼は一緒に断食することを約束してくれ、おかげでわたしは安堵しました。しかし、それだけではありませんでした。コセ長老はフランスにいる自分の家族に手紙を書き、事の次第を伝えました。すると彼らもわたしの父のために断食し、さらにボルドー支部の会員たちにも断食に加わってくれるよう依頼しました。彼らが見も知らぬ一人の男性の健康を願って断食してくれることに、わたしは驚きを隠せませんでした。

その瞬間、御霊がそっとわたしに語りかけました。わたしは不意に「聖徒たちと同じ国籍のものであり、神の家族なのである」(エペソ2:19)とは、どういうことなのか分かったのです。わたしたちは同じ一つの信仰を持ち、病や死よりも強いきずなを持った福音の下に結ばれています。わたしたちは真の兄弟、姉妹なのです。たとえどこで礼拝しようとも、だれ一人、異国人はいないのです。□





地上の天国

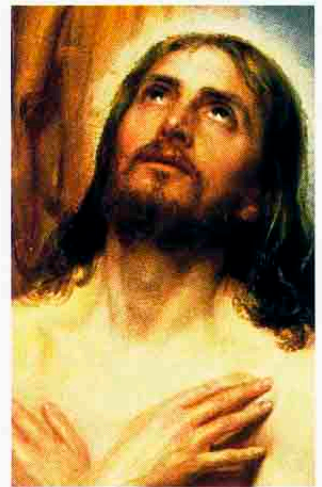
PHOTOGRAPHY BY DON RIDING
PAINTINGS BY CARL HEINRICH BLOCH



「あなたの前に聖文がおいてある。まことに、万物は神がましますことを示している。まことに、大地も、大地の面おもてにある万物も……創造主がましますことを証あかししている。」(アルマ30：44)

山の頂で体を休め、浜辺を散策し、小川の傍らに腰を下ろし、かれんな花を手に取り、日の出を眺めるとき、大地の謳歌おうかする創造の喜びが感じられるような気がします。また、霊的な事柄を身近に感じるのに、自然がどんなに大きな助けになっているかが分かります。主と預言者たちが、地上にもたらされた、天上の事柄の神秘と喜びを人に伝えるため、自然界に見られる事物を用いられたのも不思議ではありません。そうした感動に包まれるとき、聖文の言葉は、預言的な響きだけでなく詩的な響きも持ってきます。





「草は枯れ、花はしぼむ。しかし、われわれの神の言葉はとこしえに変わることはない。」(イザヤ40：8)

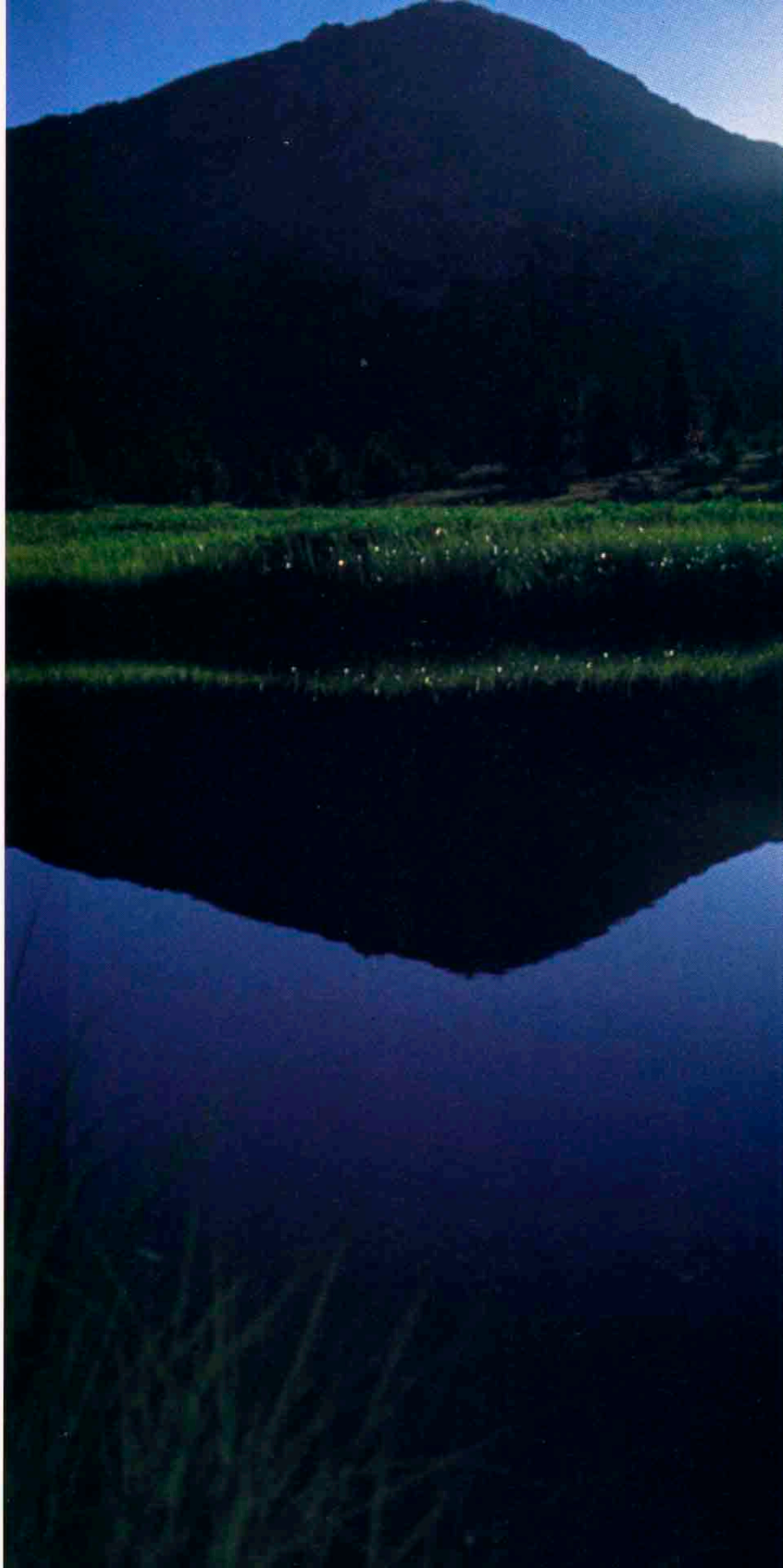
「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。」(ヨハネ15：5)

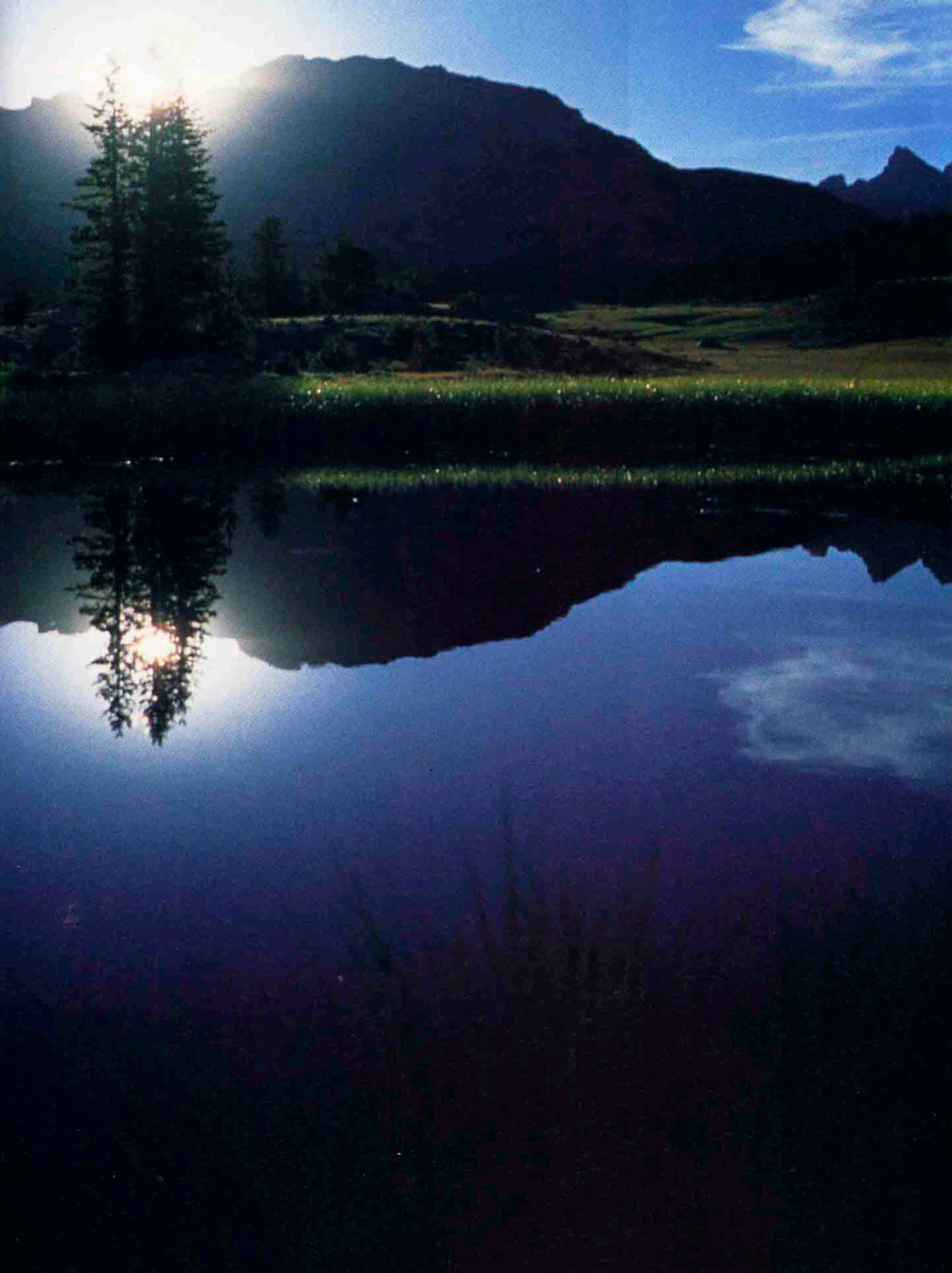


「見よ、われは生ける神の子イエス・キリストにして天と地を創りたり。暗きにかくる能わざる光明なり。」(教義と聖約14:9)

「わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであらう。」(ヨハネ4:14)

「山々は喜びの声を挙げよ。汝ら谷よ、皆声高く叫べ。すべて諸々の海と乾ける地とは、汝らの永遠なる王の爲したもう驚嘆すべき御業を語れ。」(教義と聖約128:23)

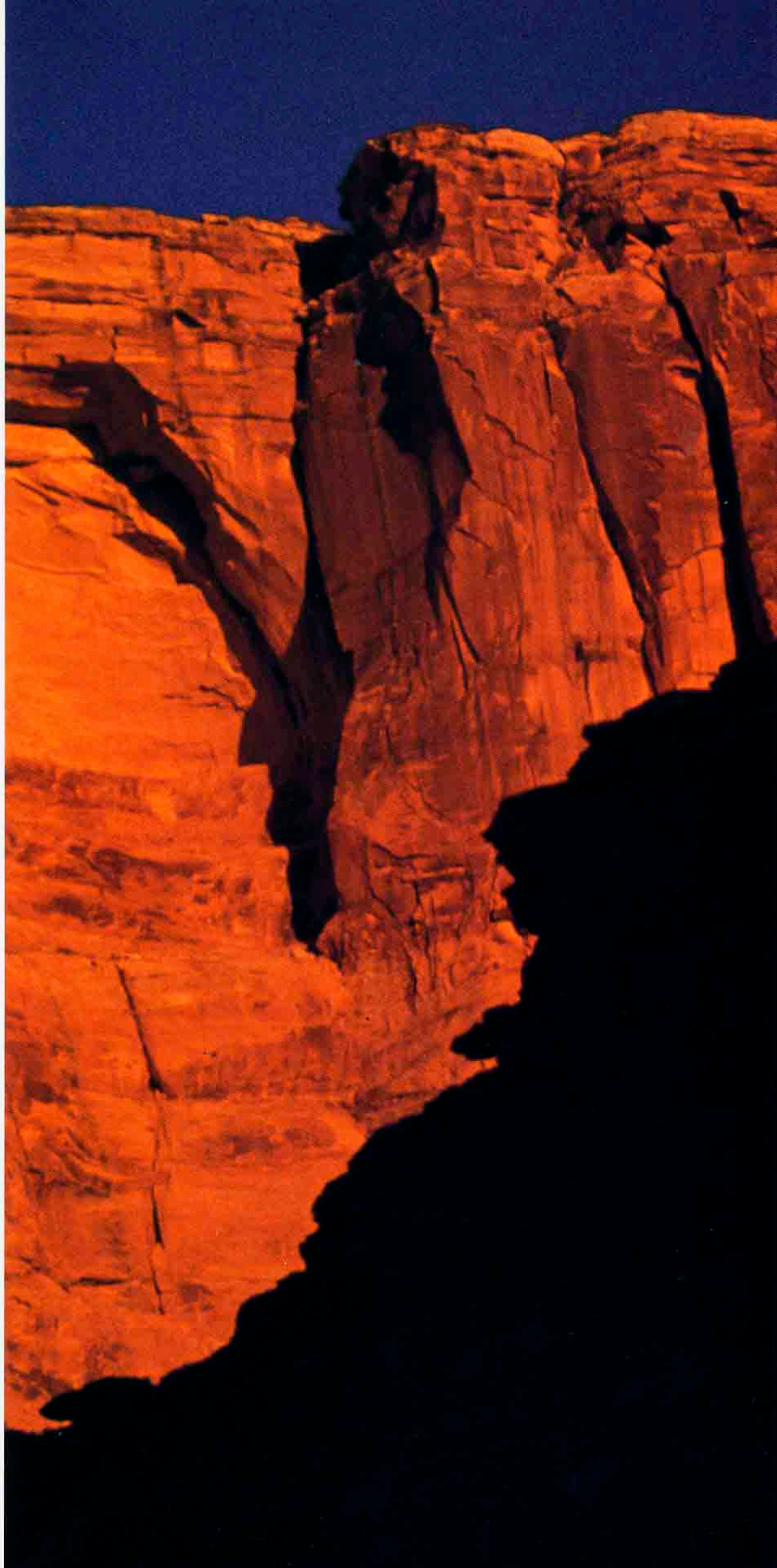






「神こそわが岩、わが救^{すくい}、わが
高きやぐらである。わたしは動
かされることはない。」(詩篇
62 : 6)

「わたしはあなたに声を上げ、
まことに、わたしの神、わたし
の義の岩であるあなたに叫び求
めます。まことに、わたしの声
はわたしの岩であり、永遠の神
であるあなたのみもとに、とこ
しえに上ることでしょう。」(2
ニーファイ 4 : 35)



いつでも主のために

エバ・C・ピーン

日曜日の集会が終わり、わたしは、絵に書いたように美しい夏の日を、家族と一緒に過ごすのを楽しみにしていました。午前中の集会やレッスンを終え、家や食事の献立に心が向かい始めました。

家に近づくにつれ、わたしは、御主人を亡くしている年配のジェニー*を訪問しなくては、と強く感じました。そういえば数週間も彼女を教会で見かけていません。それを思い出すと、自責の念に駆られるのでした。もしかしたら、集会に来られない理由があるのでしょうか。しかしわたしはその考えを打ち消し、夫や子供たちとの楽しい日曜日の夕食について考えました。

食事の後、またもやジェニーについて、何となく後ろめたい気持ちが出てきました。でも自分はすでに教会で何時間も集会に出席していたし、家族と一緒に午後のひとときを過ごしても何がいけないでしょう。そう言い聞かせて、ジェニーへの気持ちを再び打ち消そうとしました。でもどんなに打ち消そうとしても、ジェニーのことが頭から離れません。再び、静かな細い声がわたしにささやきました。隣人を訪問しなさいというささやきです。

わたしはとうとう、わずかな距離を歩いてジェニーの家に行き、玄関のベルを鳴らしました。中から出て来たジェニーは気が動転していました。わたしを見るなり、泣きだしてしまっただけです。そして穏やかにこう言いました。「あなたが来てくれるよう祈って

いたんです。」

それからの1時間ほど、わたしはジェニーが数々の深刻な問題について語るのを聞きました。家族の中で過酷な試練を受けている人が何人かいるのです。子供が離婚したことも、ジェニーは最近知りました。そうした家族の危機に直面してジェニーは、どう対処したらいいのか分からなかったのです。彼女は話を聞いてくれる人を求めて、一心に祈っていました。そして御霊はわたしを彼女のもとへ送ろうとし

ていたのです。

ジェニーを訪問したことで、わたしは貴重な教訓を幾つか得ました。主とその子供たち仕えるのに、日時の制限はないということです。主はわたしたちが御霊の静かな細い声の促しに従うことを望んでいらっしゃる。主はしばしば、わたしたちを通して隣人の祈りにこたえられるからです。□

*名前は変えてあります。



ILLUSTRATED BY LAVON THORNTON

創り主への 感謝



ベサニー・M・ガルブレイス

ある日曜日の午後、わたしは聖餐会^{せいさん}で語る帰還宣教師の話を、何か落ち着かない気持ちで聞いていました。そして、後ろの方の席で二人の子供が「いないいないばあ」をして遊ぶのを見て気を紛らわせました。日曜日の集会在意味のない形式的なもののように思えてならなかったのです。友達の中に、教会に行ったり安息日を守ったりする人は一人もいません。わたしはただ不機嫌そうに礼拝堂に座って、自分は何て惨めなんだろうという思いに駆られていました。

ふと右の方に目をやると、両親が目に涙を浮かべているのが見えました。辺りを見回すと、ほかにもたくさんの人々が涙を流しています。最近伝道から戻ったばかりの長老にもう一度注意を向けたとき、彼がこう話すのが聞こえました。「……そして、わたしは父なる神が生きておられることを知っています。」

この言葉は今までも、特に聖餐会では幾度となく耳にした言葉でした。わたしはその度に、「神がいるなんて、だれに分かるもんですか」と思ったものでした。その日も再び同じ思いが胸をよぎりました。しかし閉会の祈りがささげられるころには、自分がそのような思いを抱いたことが幾分後ろめたく感じられました。

その日の夕方、家族全員で聖文を勉強するために集まり、アルマ書第30章を読みました。兄のジムが読んだ箇所には、反キリストのコリホルがアルマに神はいないと

話したことが書かれてありました。43節と44節にはこう記されています。「すると、コリホルはアルマに、『もしあなたが、神のいることを確信させるしるしをわたしに見せ、まことに、神に力のあることを示してくれるなら、あなたの言葉が真実であることを納得するだろう』と言った。

しかし、アルマは彼に言った。『……あなたの前に聖文が置いてある。まことに、万物は神がましますことを示している。まことに、大地も、大地の面^{おもて}にある万物も、……創造主がましますことを証している。』」

その夜、わたしは横になって静かにアルマの言葉を思い巡らしました。地上にあるすべての創造物、花や木、動物、そして自分自身について考えました。人間の体は何とたぐいまれな創造物なのでしょう。わたしは長い間じっと横になっていましたが、そのとき初等協会時代に習った歌の歌詞が頭に浮かんできました。「ばらにそつと触れたりするときいつも、創り主お父様を思い感謝します。」

涙が頬^{ほお}を伝いました。わたしは天父に祈り、赦^{ゆる}しを請い、そしてわたしのために美しい世界を造ってくださったことを感謝しました。わたしは今、父なる神が生きておられることを知っています。□



高 潔

人生の真の試し

十二使徒定員会会員
ジョセフ・B・ワースリン

主は次のように啓示されています。「わが僕ハイラム・スミスは幸福なるかな。主なるわれは、彼の心実直なる故に彼を愛す。また彼はわれの前に義しきことを愛する故にわれ彼を愛す……。」(教義と聖約 124:15) 人が主からこれ以上の称賛の言葉を受けたことはほかに例がないと思います。高潔とは、その結果にかかわらず常に正しく善いことを行うことです。またそれは単に行動ばかりではなく、もっと大切な点は、心の奥底から正しい思いを抱くことです。つまり、高潔な人とは、正義感の強い信頼できる人

であり、そのような人は決して契約や聖約を破ることはありません。

わたしたちには皆、生まれつき何が正しく、善いものであるかを知る能力があります。善悪を知るキリストの御霊を受けたわたしたちは、常に善を選ぶべきです。たとえ策略、詐欺、虚偽がこの世では受け入れられているように見えても、わたしたちはだまされてはなりません。うそ、盗み、ごまかしはどこにでもあります。最高の道徳的、倫理的標準である高潔さをしっかりと身に付けることは、真の末日聖徒の生活に欠かせないことなのです。

昔のヨブのように、「わたしは死ぬまで、潔白を主張してやめない」(ヨブ27:5)と言えるようにならなくてはなりません。ヨブは、家族、友、健康、富という大事なものをすべて失っ

たにもかかわらず、高潔さだけは失うまいとしました。それに引き換え、今日では多くの人が大した価値のないもののために自らの高潔さを売り渡しています。

ある人は、お菓子や衣服、化粧品、宝石などの大して価値のない物を手に入れるために万引きし、お金で買うことのできない高潔さを失っています。収入を正しく申告しなかったり、偽りの控除を請求したりして、税金の還付金を余計にもらう人は、ほんの少しのお金を手に入れるために、自分の高潔さを犠牲にしています。自分が購入した品物や受けたサービスに対して速やかに支払いをしない人は、一時的には得をしたように思えたとしても、実際にはむなしい利益のために、長いこと大切に培ってきた高潔さを損ねています。伴侶に対して不誠実な夫や妻は、高潔さと引き換えにつかの間の浮かれた遊びに興じることとなります。高潔さはお金には代えられない最も貴重なものです。

ヤコブの息子ヨセフは、高潔さの手本です。天の父なる神の息子たちの中でもヨセフの気高さは際立ったものです。正しく善いことを行い、清廉潔白で信頼できる人でした。自己を律し、



Test Today!



あなたは自分にどんな値札を
付けていますか。

不謹慎



決して人の信頼を裏切るようなことはなかったのです。

その高潔さと正義によってヨセフはあらゆる点で主に愛され祝福されました。まさしく「神は、神を愛する者たち〔にとって〕万事を益となるようにして下さる」(ローマ8:28)という言葉どおりの人生を送ったのです。わたしたちは特にこのヨセフの模範に従わなければなりません。なぜなら教会員はほとんど皆ヨセフの子孫だからです。

ヨセフは幼いときから父ヤコブに愛されました。また、主から将来の出来事を夢で示されました。ところがヨセフの兄弟たちは彼を憎み、命を取ろうと企て、奴隷として売り払ってしまいました。しかしエジプトへ連れて行かれても、主は彼とともにおられました。ヨセフはパロの侍衛長ポテパルの家をつかさどる者となり、ポテパルの妻に言い寄られたときに、自分の正義感のため、またポテパルの信頼を裏切らないためにも、彼女の不道徳な誘いから逃れたのでした。

その結果としてヨセフは訴えられ、牢獄に入れられましたが、主は彼とともにおられ、ヨセフは牢獄のすべての囚人を任されました。そして、主の導きによりパロの給仕長と料理長の夢を解き明かし、後には7頭の太った牛とやせた牛、7つの豊かに実った穂とやせた穂というパロの夢を解き明かしました。そこで、ヨセフはパロに次ぐエジプトの支配者となりました。彼は豊作のときに作物を蓄えさせ、凶作のときにそれを放出するように民を指導したのです。

凶作のときに、22年前にヨセフを奴隷として売った兄弟たちが、食糧を求

めてエジプトへやって来ました。その高い位のゆえに弟とは知らずに、彼らはヨセフにひれ伏しました。

感動的なその場面で、ヨセフは兄弟たちに身分を明かし、彼らを赦したのです。誤った行動を取った兄弟たちを奴隷にしたり、投獄や死刑に処することもできたでしょう。しかし、ヨセフは正しく善いことを行い、こう言いました。

「わたしはあなたがたの弟ヨセフです。あなたがたがエジプトに売った者です。

しかしわたしをここに売ったのを嘆くことも、悔むこともありません。…

神は、あなたがたのすえを地に残すため、また大いなる救をもってあなたがたの命を助けるために、わたしをあなたがたよりさきにつかわされたのです。

それゆえわたしをここにつかわたしたのはあなたがたではなく、神です。」(創世45:4-5, 7-8)

主はヨセフを通してイスラエルの子らを残し、エジプトの地を与え、そこで栄え、子孫をもうけるように導かれたのです。

この話はよく知られていますが、ヨセフの高潔さとそれが彼にもたらした祝福に焦点を置いてもう一度読むようにお勧めします。ヨセフはイスラエルのおける長子の特権を持つ息子となり、アメリカの地で受け継ぎを得たのです(エテル13:8参照)。主は彼にエジ

プトからイスラエルの子らを導き出したモーセについて、また末日の回復された福音の預言者ジョセフ・スミスについて預言することを許されました(2ニーファイ3:6-21参照)。

近代における高潔さの模範ともいべき人は、合衆国の大統領ジョージ・ワシントンです。報酬を受けることを拒否し、正確に記録した出費だけを政府に払ってもらおうよう望みました。こうして自国のために45年間奉仕したのです(デビッド・O・マッケイ, *Secrets of a Happy Life* 『幸福な生活



の鍵』pp.142-144参照)。

高潔さの模範を示したもう一人の人は、預言者ジョセフ・スミスです。彼は自分の命が危険にさらされても、主の指示に背くことはありませんでした。

主はわたしたちに高潔な人生を送り、主の戒めに従順であるように期待されています。主は「わたしを主よ、主よ、と呼びながら、なぜわたしの言うことを行わないのか」(ルカ6:46)と言

われました。また別の折には、「わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである」と言われました（マタイ7：21）。

小さなうそや欺き、少しでも人を不正に利用することは、主に受け入れられるものではありません（2ニーファイ28：8参照）。聖文にはこれらはサタンが「巧みに〔破滅〕に誘い落とす」（21節）方法であると警告されています。この世は高潔さを身に付けた男女を特に必要としています。詐欺、資金の横領、誇大広告など、ごまかしたり人を欺いたりして利益を得ようとする行為は日常茶飯事となっていますが、主はこれらの行為を憎まれます。

もしわたしたちの利己的な「心〔が〕この世に属けるものの上に」ある（教義と聖約121：35）なら、高潔さはたやすく失われてしまいます。

高潔な人が得る報いは、計り知れないものです。その一つは、言葉では表現できない心の平安と落ち着きです。これは正しいことを行っているという自信から生まれます。また罪に伴う罪悪感と不安がないことです。

高潔な人が得るもう一つの報いは、神に近づいているという自信を持つことです。絶えず徳が思いを飾るとき、わたしたちの自ら信じることは神の前に強くなります（教義と聖約121：45参照）。正しいことを行うとき、躊躇せず堂々と神から導きを受けることができるのです。主は祈りにこたえ、困

難なときに助けてくださるからです。高潔な人が得る最高の報いは、常に聖霊を伴侶にできることです（教義と聖約121：46参照）。聖霊は悪を行う者には宿りません。正しいことを行うときに、わたしたちの内にとどまり、わたしたちが行うすべてのことを導いてくださるのです。

皆さん、いかにありきたりで小さなことに見えても、すべてのことにおいて高潔さを実践できる人になりましょう。小さなことが積み重なってわたしたちの生活を形作るのです。□

（この記事は、1990年4月の総大会での説教を基に書かれました。）

あなたの高潔度チェック

高潔さとは、小さな事柄にも正直なことです。以下の状況は、あなたの高潔さが立派なものかどうかを知る手がかりとなるでしょう。

1. 試験日が近づいて来ました。同じ先生から習っているほかのクラスの生徒たちは、すでにその試験を受けています。彼らから、問題を教えてあげようかと言われました。
2. 友達の何人かが、不快な冗談を言っています。
3. とても気に入ったドレスを見つけました。でも、それは慎み深い服とは言えません。

4. 監督に話さなければならない、と思えるようなことをしてしまいました。でもそれを言ったら、監督がどう思うか心配です。
5. 自分は聖餐を取るにはふさわしくない、と感じています。でも取らないで、だれかに気づかれるのを恐れています。

答え——各状況に対する正しい対応は、「救い主がここにおられたら、わたしはどうするだろうか」という質問について考えてみれば、おのずと分かるでしょう。



「ガリラヤの海を襲つ風」 レンブラント画

イエスはガリラヤの海を渡る船上で眠っておられた。「すると、激しい突風^{あらし}が起り、波が舟の中に打ち込んできて、舟に満ちそうになった。」

おびえた弟子たちはイエスを起こして、助けを請い願った。「イエスは起きあがって風をしかり、

海にむかって、「静まれ、黙れ」と言われると、風はやんで、大なぎになった。」(マルコ4：36-39参照) PHOTOGRAPH BY SUPERSTOCK



PHOTOGRAPH BY CRAIG DIMOND (TOP); PHOTOGRAPH BY WELDEN ANDERSEN (BOTTOM)

人口抑制は社会的に受け入れられつつある。しかしそれによって、天父の霊の子供たちは愛情に満ちた家庭生活を現世で経験できなくなっている。ジェームズ・E・ファウスト長老はこう言っている。「聖文や預言者のメッセージは、変わることがありません。」（本誌「主に仕え、悪魔に立ち向かう」p. 2 参照）



アジア地域の現状

多様性に富む国々での伝道活動と人道的救援活動

アジア地域会長会に聞く

教会はアジア地域で着実な発展を遂げている。^{ホンコン}香港、台湾、中国、モンゴル、タイ、ベトナム、ラオス、カンボジアなどの教会の現状を、『エンサイン』誌記者がアジア地域会長会の3人にインタビューした。



第一副会長
サイクオックオン
載國源



会長
ジョン・K・カーマック



第二副会長
ジョン・H・グローバーク

*アジア地域会長会は8月15日付けで変更になっていますが、詳細は12月号でお知らせします。

——アジア地域での教会の発展状況について、説明してください。

「御業は多くの国で順調に進んでいます。しかし成長の緩やかな国もあれば、本格的な伝道活動に向けて基盤作りをしている国もあります。いずれにしても、今後のすばらしい発展が期待されます。アジアの国々は、文化、宗教、経済、政治などの面で多様性に富んでいます。教会はそれぞれの国で、直面するチャレンジに具体的に、また独特の方法で取り組んでいます。」

——本格的な伝道活動に向けて基盤作りをしている国とは、どこを指しますか。

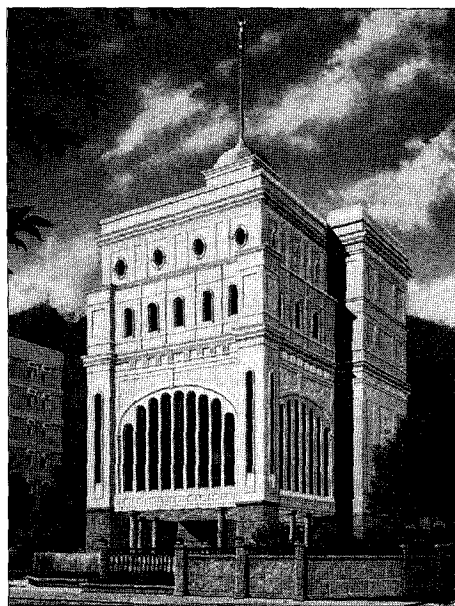
「カンボジア、ベトナム、ラオスがよい例です。1994年3月に、教会はカンボジアでようやく正式な伝道の承認を受けました。同国で、教会は伝道活動と人道的救援活動を織り交ぜながら行っています。支部はプノンペンに設立されていて、約60人のカンボジア人とベトナム人会員が集っています。」

わたしたちは、純粋に人道的援助を目的として、ベトナム北部に医薬品と教科書を送付しました。ラオスにも昨

年の8月にはトラック3台分の米を提供しました。また古着を送付する計画もしています。」

——香港と台湾の教会について、お聞かせください。

「香港と台湾に当教会が設立されて



香港神殿の完成予想図。建築はすでに着工している。

から、約40年になります。会員数は着実に伸びています。香港と台湾の、教会の規模と力とは、大変似通っています。どちらの地域にも約2万人の会員が存在します。台湾には4つのステークと3つの地方部、2つの伝道部と1つの神殿があります。香港には5つのステークと1つの伝道部があり、間もなく神殿も完成します。教会は堅固で、すばらしい指導力と福音の知識を身に付けた第二世代の会員も多くいます。」

——香港の会員たちは、もうすぐ自分たちの神殿ができるので、楽しみにしているでしょうね。

「台湾やハワイ、マニラ、そしてアメリカ合衆国の神殿で、エンゲウメントを受けてきた教会員はたくさんいます。しかし、国外で神殿の儀式を受けられない人々も、大勢います。彼らは皆、香港に神殿ができる日を心待ちにしています。おもに地元の指導者で構成される神殿委員会も、来春の献堂式に合わせて行う催しの準備に忙しく働いています。」

——中国での教会の現状を、お聞か

せくください。

「中国では、教会は正式に認められていません。しかし、外国で生まれて現在中国に住む会員たちがいますし、中国全域の様々な機関に派遣されるブリガム・ヤング大学の教師派遣プログラムを通じて、教会は活動しています。北京には支部があり、外国で生まれて現在中国に住む会員たちが、約80人集っています。同支部には、数人の台湾出身の会員も含め、中国人の会員も幾らか集っています。上海には、30人ほどの支部があり、広州にも数家族と何人かの独身の学生が集う支部があります。」

——タイでの教会の発展は、いかがですか。

「御業は、実にすばらしい進歩を遂げています。タイは、かなり成功している伝道地の一つです。実りの多い伝道地であり、現在、指導者の養成に力を入れています。タイに教会が設立されて、30年ほどになります。会員は5,000人で、4つの地方部と1つの伝道部があります。」

——モンゴルでの伝道は、どのような状況でしょう。

「夫婦宣教師が赴任した最初の年は、伝道活動のための情報収集と、地盤固めに終始しました。現在、モンゴルには200人の会員がいますが、そのほとんどが過去2年間にバプテスマを受けた人々です。」

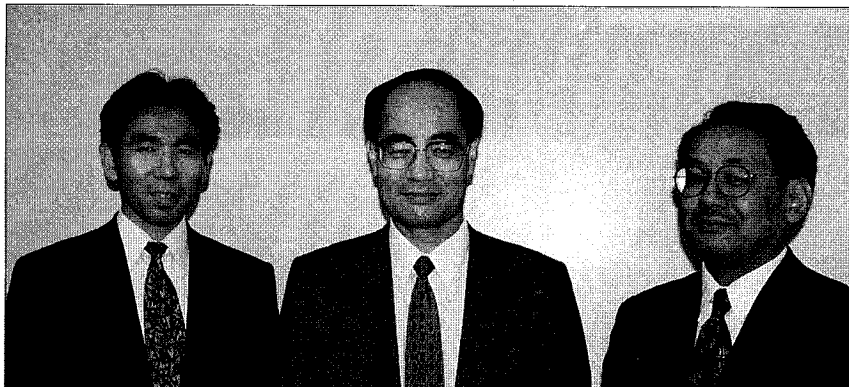
モンゴルの人々は福音の知識を飢え渇くように求めていて、宣教師はほとんどの時間を、教会員から紹介された求道者への対応と、レッスンを教えることに費やしています。主はわたしたちの努力に対して、まさに恵みを注いでくださっています。」

——アジアの教会員が直面するチャレンジには、どのようなものがありますか。

「アジア東部には、時折、外国の宗教を排斥する風潮があります。それでも福音に興味を示す人々はいます。わたしたちは、福音の基本的な原則と、それをどう生活に生かすかを彼らに伝えるために、日夜励んでいます。」

(Ensign『エンサイン』1995年6月号, pp.76-77より要約)

再組織された 町田ステーキ会長会



去る8月13日、アジア北地域会長会会長のデビッド・E・ソレンセン長老管理の下に開催された町田ステーキ大会で、1990年5月よりステーキ会長の責任を果たしてきた柏倉仁兄弟が解任され、新たに坂井圭兄弟(写真中央)が召された。ステーキ第一副会長には赤塚周兄弟(写真左)が、ステーキ第二副会長には服部行彦兄弟(写真右)が召され、その任に当たる。

愛にあふれるシオンを目指して

——「あなたの信仰があなたを救ったのです」——

町田ステーキ会長 坂井 圭

これまでステーキ会長として5年にわたり、わたしたちを指導してくださった柏倉仁兄弟は、この度、地域幹部に召されました。彼はわたしたちに、すべての源は「キリストの純粋な愛」であることを、繰り返し繰り返し教えていただきました。

毎年、彼が選ばれたステーキのテーマには、そんな彼の思いがいつも込められていました。例えば、今年のテーマは、「あなたがたは、御父が御子イエス・キリストに真に従う者すべてに授けられたこの愛で満たされるように……熱意を込め御父に祈りなさい」(モロナイ7:48)です。昨年、「人知をはるかに超えたキリストの愛を知って……あなたがたが満たされるように」でした。またその前の年は、「キリストの純粋な愛は、友の永遠の進歩と喜びを追い求める」でした。

わたしたちは、彼が敷いてくださったこの愛の路線に沿って、これからも

進んで行きたいと思っています。LOVE IS ACTION(愛は行動である)とおっしゃった方がいますが、わたしたちも「キリストの純粋な愛」(モロナイ7:47)を成就する行動を、みんなで考えて、それらを個人と家族を中心に展開していきたいと思っています。そのような行動を積み重ねていくことができれば、やがて聖文に約束されている永遠の喜びを、個人と家族が享受できるに違いないと確信しています。また、永遠の生きがいは、教会の使命であるこれらの業を実践することにあると分かるに違いないと思っています。

『聖書』の中には、主イエス・キリストが民と直接交流されている場面がたくさん出てきます。あるとき主は、「きょう、救がこの家に来た」(ルカ

19:9)とおっしゃいました。また、あるときは、「あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい」(マルコ5:34)とおっしゃっています。このような優しい言葉を主からかけていただける人々が、ステーキから一人でも多く誕生するようお願い、支援したいと思っています。

以前、ステーキの会員たちの意識調査を行いました。それは「教会で喜びと悲しみを感じるのは、それぞれのようなきですか」という質問でした。たくさん寄せられた回答をまとめると、「喜びを感じるのは、次のようなきでした。

1. 集う喜び(霊的な証、話、賛美歌に共感するとき。福音を学べるとき)
2. 成長の喜び(自らの成長を自覚するとき。ほかの会員の成長を見るとき)
3. 奉仕をする喜び(神と同胞に仕えるとき)
4. 友と交流する喜び(歓迎、あいさつを受けるとき。会話を交わすとき。

仲間意識を感じる時。感謝や称賛の言葉を受けるとき、模範的な人に出会うとき)

一方「悲しみ」を感じるのは、次のようなきでした。

1. 対人関係から発生する悲しみ(無視されたり、無関心な扱いを受けるとき。誤解されたり、強制されたりするとき。うわべだけのつきあいを受けるとき)
2. 集会や活動での悲しみ(出席が少ないとき。準備不足のために、よい話やレッスンを聞けないとき。騒がしかったり、効率が悪かったりする集会や活動に参加したとき)
3. 人の欠点を見るとき悲しみ(自己中心的な人、よくないうわさや陰口を聞くとき)
4. 教会から去って行く人を見るとき悲しみ
5. 汚れた集会場を見るとき悲しみ
6. 奉仕をしても報われないときの悲しみ
7. 自己嫌悪に陥るとき悲しみ

これらの回答を肝に銘じ、一人一人を大切に、愛にあふれた優しさが満ちるシオンづくりを目指したいと思っています。神が生きておられること、イエス・キリストが贖いの主、救い主であることを証します。(さかい・きよし)

坂井圭ステーキ会長の紹介

1939年岡山県岡山市生まれ。1957年に改宗。慶応大学法学部卒業。1967年に小川光代姉妹と結婚し、3人の息子がいる。1962年繊維商社に就職。1968年に教会の翻訳事業部開設とともに教会職員となり、出版、配送業務を担当。1978年に仙台伝道部に伝道部長として赴任。帰還後、教会管理本部で財務、人事を担当。現在は東京神殿記録部長。教会では、ステーキ副会長、高等評議員、監督、支部長などを歴任している。町田第二ワード所属。

プロフットボール選手スティーブ・ヤング兄弟を招いての特別ファイヤサイド

——わたしたちは教会の開拓者——

1995年8月3日木曜日、教会員、宣教師およびその友人を対象とした東京南伝道部主催の特別ファイヤサイドが、吉祥寺の東京ステーキセンターで開催された。

フットボールチーム、サンフランシスコフォーティナイナーズ(49ナーズ)のスティーブ・ヤング選手(本誌1995年7月号、p.120参照)ならびにバート・オーツ選手をゲストに迎えてのファイヤサイドである。49ナーズは本年度スーパー・ボウルで全米1位に輝き、スティーブ・ヤング選手はNFL(米国のプロフットボールリーグ)最優秀選手に選ばれた。ヤング選手もオーツ選手とともに当教会の会員であり、ブリガム・ヤング大学の卒業生である。

約500人がファイヤサイドに出席したが、そのうちの150人はスティーブ・ヤング選手を一目見て、話を聞こうと集まった教会員以外の人たちであった。交通渋滞により両選手の到着が遅れたため、到着するまでの間、現在東京南伝道部で働いているマッケイ・クリステンセン長老(本誌1995年10月号、ローカルpp.8-9参照)が会衆に証を述べた。クリステンセン長老は、伝道に出るために、プロ野球チームのロサンゼルス・エンジェルスとの貴重な選手生活の開始を延期している。

チームには5人の活発な教会員がいる

ヤング兄弟は話の中で、サンフランシスコ・フットボールチームには5人

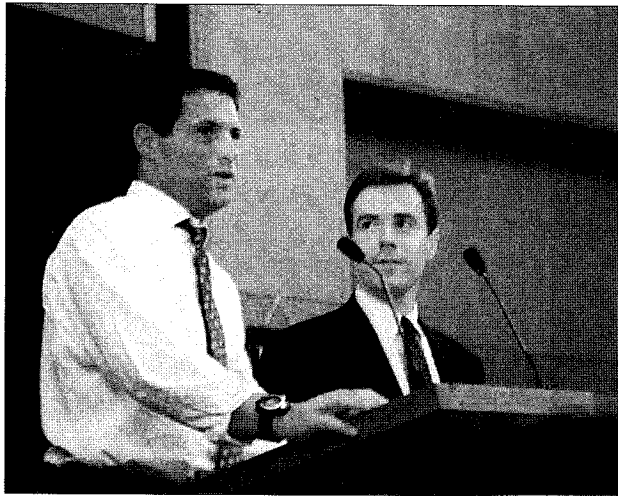
の活発な教会員がいると述べた。

アジア北地域会長会のデビッド・E・ソレンセン会長による紹介に続いて、ヤング兄弟は次のように述べた。「教会や『モルモン書』について、世界の様々な場所で、特に吉祥寺では2度(1989年に初来日した際にも特別ファイヤサイドが持たれた)も証を伝えることができ、祝福だと感じています。

教会には今日でも開拓者が多くいます。歴史上の開拓者や自分の先祖であるブリガム・ヤングの時代と同様に、福音に従って生活することは、依然として世の中の主流になってはいません。

聖徒たちは特異な民

教会初期から今日に至るまで、聖徒たちは特異な民として知られてきまし

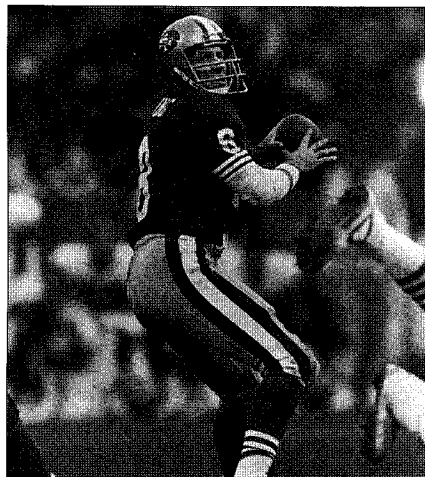


東京ステーキセンターで開催された特別ファイヤサイドで証を述べるスティーブ・ヤング選手（写真左）

問に対し、オーツ兄弟は「アンモンです。肉体的にも霊的にも強い偉大な宣教師だからです」と答えた。

一方、ヤング兄弟は司令官モロナイを褒めたたえた。「真理を擁護する偉大な戦士だからです。」さらに、伝道に携わる教会員や宣教師に対するアドバイスを求められたとき、オーツ兄弟は、行いを通じてイエス・キリストの福音の生ける模範となるよう勧めた。ヤング兄弟は人々に、神の子供たちすべてに対して忍耐と寛容の心を持つようチャレンジした。

二人とも、福音が自分たちの人生にもたらした意義と平安について証した。そして全人類が同じ祝福を享受できるよう望んでいると述べた。集会后、宣教師たちは約50冊の『モルモン書』を参加者に渡すことができた。ゲストのユーモア、謙遜さ、霊性により出席者のだれもが楽しく、霊的な夕べを過ごすことができた。（レポーター：グレン・N・ロウ、東京南伝道部伝道部長）



全米ナンバーワンクォーターバックの座に就いたスティーブ・ヤング選手

将来宣教師

——宣教師になる

日本人宣教師訓練センター所長
岡本亮

日 本人宣教師訓練センター(JMTC)で、新しく召された宣教師を訓練する責任を頂き、昨年2月から今年の9月までに長老135人、姉妹宣教師136人、夫婦宣教師2組、合計275人の宣教師を教える機会がありました。訓練はわずか17日足らずですが、その17日間で様々な宣教師たちの改宗のドラマを見ることができます。

この宣教師たちがJMTCに入ってから、しばらくすると必ず口にする言葉があります。それは「伝道に出る前に、もっとよく準備をしたらよかった」というものです。その言葉を耳にする度に「備え」の必要性を強調すべきだと痛感させられてきました。それでは、わたしたちは一体どのような準備をしたらよいのでしょうか。

1. 『モルモン書』への証

まず最初に準備することは『モルモン書』に対しての強い証を持つことです。『モルモン書』はわたしたちの宗教の「かなめ石」なので、宣教師を目指すわたしたちは、この「かなめ石」である『モルモン書』に、確固とした強い証を持つ必要があります。

では、どのようにすれば、『モルモン書』への強い証が得られるのでしょうか。第1に、モロナイ書第10章3節にあるように「この記録を読む」ことです。『モルモン書』を初めから終わりまで通して読みます。

第2に、「主が人の子らにどれほど憐れみをかけてこられたかを思い起こし、それを心の中で深く考え」ることです。すなわち『モルモン書』を再度時間をかけて、ゆっくり読みます。そうしますと、登場する預言者や宣教師たちに心を動かされ、あたかも自分がその場において、彼らの声を聞いている

た。クリスチャンであり末日聖徒であるわたしたちが、神の教えに添って生活しようとする、常に犠牲が伴います。国籍や人種にかかわらず、わたしたちは皆真理に従わなくてはなりません。教会員が一致して、神の王国を築くためにどの国にあっても犠牲を払うのです。

富や名声は、大切なことから人の目をそらさせる要因になりかねません。しかし、富や名声を得たとしても、『わたしたちは神に仕えるためにこの地上にいる』という事実は変わりません。

ヤング兄弟から紹介されたオーツ兄弟は、マタイによる福音書第25章のタラントのたとえ話に基づいて語った。そして、人は持っているものや物質的に与えられたものによって裁かれるのではない、と強調した。「人は与えられたものを使って何をするかで裁かれるのです。神は人をほかの人と比べたりはなさいません。わたしたちも人に対し、そうすべきではありません。神が比べられるのは、自分自身、自分の人生、そして自分の才能を使って何をなしたかです。この世で才能をうまく使えないのではないかという恐れを克服し、神を信頼し、神から与えられた才能を十分に伸ばさなくてはなりません。」

好きな人物は 司令官モロナイ

最後に二人は、聴衆からの幾つかの質問に答えた。『モルモン書』の中でいちばん好きな人物はだれかという質

を目指す皆さんへ

はじめの7つの備え

ような気持ちになります。時には神様の愛に感動し、涙が出ることもあります。すなわち、これが「主が人の子らにどれほど憐れみをかけてこられたかを思い起こし、それを心の中で深く考える大切な段階になります。

第3は、モロナイ書第10章4節の「これが真実かどうかキリストの名によって永遠の父なる神に問う」段階です。人に感動を与える書物であっても、それは作り話かもしれません。この書物が真実かどうか、誠心誠意でイエス・キリストを信じながら天父に尋ねるのです。先の「心を動かされ、深く考える」段階を経た人であれば、必ず「神はこれが真実であることを、聖霊の力によってあなたがたに明らかにしてください」のです。この経験によって、わたしたちは『モルモン書』に確固とした強い証を持つようになります(イアン・サンダーズ「I Knew Nephi」*New Era*「ニーファイの心を知りました」『ニューエラ』1995年6月号、pp.12-14参照)。

2. イエス・キリストへの証

イエス・キリストについての証や知

識を深めることです。1990年10月の大会で、ダリン・H・オックス長老は伝道の際の強調点について次のような興味ある話をされました。

「20年ほど前に、ハロルド・B・リー大管長はこうに言われました。『わたしが宣教師だった50年以上も前、わたしたちの最大の責任は預言者ジョセフ・スミスが神から召され、靈感を受けた方であり、『モルモン書』がまことに神の言葉であるという真理を擁護することでした。……50年後の今、わたしたちの最大の責任と希望は主であり師であるイエス・キリストの神聖な召しを擁護することです。』(『キリストの証人』『聖徒の道』1991年1月号、p.34) わたしたちは何にも増してイエス・キリストへの強い証を持つ必要があります。

イエス・キリストへの強い証を得るにはどのようにしたらよいでしょうか。それは聖文、特に『新約聖書』の四福音書(マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネによる福音書)を精読することです。イエス御自身もヨハネによる福音書第5章39節で「あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べている

が、この聖書は、わたしについてあかしをするものである」と語っておられます。また、先に述べた『モルモン書』も「イエス・キリストについてのもう一つの証」です。イエス・キリストについて証をする聖文を精読すれば、確かにイエス・キリストの証や知識が深まるのです。

3. 健康

わたしたちの体を健康に保ち、体力を養うことです。宣教師の仕事は冷房や暖房の利いたオフィスで事務を執るのは異なり、夏の炎天下を自転車で行き、雨や雪の中を歩いて福音を宣べ伝えるのです。引越越しや草抜きなどの労働奉仕で人々を助けることもあります。宣教師になる人は、日ごろから体を鍛えておく必要があります。

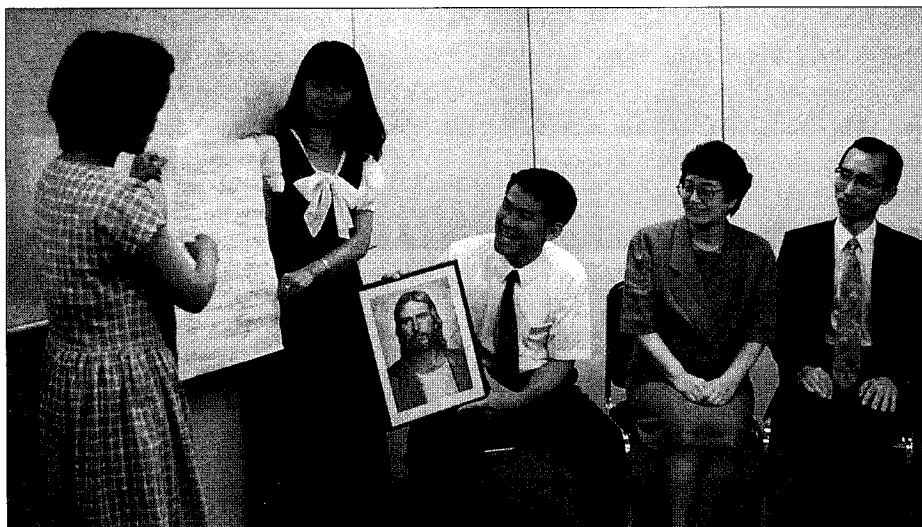
4. 純潔の律法

神の宮を聖く保つことです。「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。……

神の宮は聖なるものであり、そして、あなたがたはその宮なのだからである。」(1コリント3:16-17)

宣教師になる人は、純潔の律法を一生懸命守らなければなりません。もし、過ちを犯したら、監督・支部長に告白して、問題を早期に解決しなければなりません。後になればなるほど、告白は難しくなるものです。なぜなら、監督・支部長との面接にパスして、いったん宣教師推薦状が発行されれば、それがステーク会長・伝道部長のところまでとどまることはあまりないからです。これが後になればなるほど、告白が難しくなる理由の一つです。

そのうえ、面接が進むにつれて事態は深刻になってきます。というのは、神様の代理人である教会の指導者を欺くという罪が、面接の度に加わってくるからです。この新たに加わる罪は、しばしば、元の罪より大きくなる場合があります。「もっと早く解決していたら、こんなことにならなかったのに」と後悔するようなことがあってはならないのです(ジーン・R・クック「Worthy to Serve」*New Era*「仕



JMTCの授業風景。右端は岡本亮JMTC所長御夫妻

5. 宣教師養成プログラム

教会にはセミナー、インスティテュート、ステーク宣教師、ユースミッションナリー、伝道準備セミナーなどのすばらしい宣教師養成プログラムが用意されています。その活動に自発的に参加することも伝道のよい準備となります。

6. 家族の理解

伝道に出る前に身近な人々、特に家族に愛を示すことです。もし、家族が伝道に出ることに反対している場合は、監督・支部長の助けを借りて、家族とよく話し合う必要があります。このような段階において、イエス・キリストの最大の教えである愛を学び、実践できることでしょう。もしかすると、わたしたちの宣教師活動はこのときにすでに始まっているのかもしれませんが、強行突破は禁物です。これは最後の手段として考えられないこともないですが、日常的なものでは決してありません。わたしたちの日常的な問題解決の鍵は「説教と堅忍と柔和と温情と偽らざる愛」(教義と聖約121:41)にあります。

7. そのほかの細かい準備

宣教師の推薦状が発送されてから、召しの知らせが来て、JMTCに入るまでの間は、さらに細かい準備が必要になります。例えば『福音の標準教授法』を勉強して覚えたり、『宣教師ガイド』や『宣教師のための福音学習プログラム』の勉強をしたりします。また、早寝早起きの習慣を身に付けるような生活を整えます。

将来、宣教師を目指す兄弟姉妹の皆さん、宣教師として奉仕する機会はずばらしいです。「すなわち汝にとりて最も価値あることは、汝今の世の人々に悔改めを宣べて人々をわれに導き、もって彼らと共に父の御国に休まんことなり」(教義と聖約15:6)という御言葉が確かに真実であることを証いたします。(おかもと・りょう)

「人となりはその心に思う そのままである」

——20年後にやっと教会に復帰し得た喜び——

東京神殿宣教師 沖村一夫

昔の賢者は次のように述べました。「人となりはその心に思うそのままである。」(欽定訳箴言23:7)この言葉につき動かされ、営業用の看板も機械も世俗の思いも打ち捨て、わたしたち夫婦が東京神殿宣教師として上京したのは、昨年7月のことです。こんなわたしも、過去には神様の戒めを破り、一生を台なしにするところでした。「あなたがこれまでに、神を失望させたり悲しませたりしたことがあっても、神はあなたを愛し、立ち返る道を備えておられる」(『インスティテュート生徒用資料「旧約聖書」列王紀上-マラキ書』p.128)という主の言葉に勇気づけられてきました。

人の裏切りに苦しんで いたときに

1958年8月、夏の暑いころ、わたしはある人に裏切られ、その人を恨み、のろい、その人とともにダイナマイトで自爆して死んでしまいたいときえ思って苦しんでいました。そんなとき、末日聖徒イエス・キリスト教会の若い二人の宣教師と出会い、福音を学び、広島市高須の教会でバプテスマを受けました。

そのころの日本は高度成長時代であり、わたしの仕事はダム、橋、トンネル、高層ビルなどの建設工事、地質調査でしたから、忙しく日本各地を転々とする日々でした。そのために自然と教会から足が遠のくようになり、イエス・キリストの福音への思いも薄れていきました。

1965年に山口市で会社を設立したのですが、金もうけのためには手段を選ばないというすきんだ生活を送るようになっていました。事業は利益を上げ、この世的には成功を収めました。

「金銭を愛することは、 すべての悪の根」

それから20年の歳月が流れ、ふとしたことから我に返り、福音が心によみがえってきました。「金銭を愛することは、すべての悪の根である。ある人々は欲ばって金銭を求めたため、信仰から迷い出て、多くの苦痛をもって自分自身を刺しとおした。」(1テモテ6:10)

自分の犯した罪に気がつき、教会に帰りたと思うようになったのです。しかし、そのときには教会の敷居が高く思われ、同じキリスト教ならかまわないだろうと別の教会で1年くらい学びました。ですが、やはり心から受け入れることはできませんでした。かつて学んだ末日聖徒イエス・キリスト教会はまことの教会であるとの証を強くして、山口支部の門をたたき、ついにこの教会に帰ることができたのは1987年10月4日でした。そのときのことを思い出すと涙が出てきます。宇部支部、山口支部の会員、指導者の助けに感謝は尽きません。

教会に復帰してから8か月目の1988年6月6日、初めて東京神殿に参入し、「昇栄と救い」にかかわる儀式を受けることができました。さらに4年後には、わたしの父、戦時中、南の島で亡くなった兄、4代前までの先祖のエンダウメントの儀式をすべて終えることができました。

神殿の奉仕を通して 救い主の犠牲を学ぶ

神殿宣教師として奉仕を続けていると、利己心がなくなりイエス・キリストの犠牲が心から理解できるようになりました。

ある朝、5時半ころ、ごみを捨てて外に出ますと、小さい子供を連れた若

いカップルが玄関の前で待っておられました。「どちらからですか」と尋ねると「大阪の堺です」と言われました。あいさつを交わし、ごみを捨てて部屋に戻るときには涙が出て止まりませんでした。夜通し運転をして来られたのでしょう。神様を愛し、神殿に熱心に参入される兄弟姉妹がおられることを感謝しました。

また、車いすで儀式を受けられる兄弟のお手伝いをさせていただく機会もありましたが、その方の信仰に感動し、御霊に胸が満たされ、目頭が熱くなりました。

神殿の業を思うとき、戦争や原爆で亡くなった多くの霊が、列をなして儀式を待っているという神殿長の言葉が思い出されます。わたしたちは直系の先祖の記録を調べ、彼らの昇栄のために、ぜひ儀式をしてあげなくてはなりません。数多くの儀式のために働き手

を多数必要としているのです。神殿に参入される多くの兄弟姉妹に、これからもイエス・キリストが示された親切と優しさ、温かさ、愛をもって一生懸命奉仕したいと念じています。

菊地良彦長老が一人一人に愛をもって接しておられる姿や、神殿の外回りをきれいに清掃されている姿を見ると、わたしも神殿長の模範に倣いたいとの思いを新たにさせられます。

「神殿は美しい場所であり、啓示を授かる場所であり、平安の宿の場所です。そこは主の宮居であり、聖きを主にささげる場所です」（『聖徒の道』1995年5月号、p.7）とハワード・W・ハンター大管長が言われたように、わたしも姉妹とともに自分の聖さをささげ、頑張りたいと思います。（おきむら・かずお 岡山伝道部山口地方部山口支部出身）

せないでいました。

そんなとき、ある兄弟がわが家に1泊され、二人で話をする機会がありました。その兄弟は突然、「奥さん、今幸せですか？ その現在の幸せのまま霊界においても家族と一緒に住むことができる、こんなすばらしい教えを持った教会はほかにはありませんよ」と語られたのです。その一言にわたしは感動し、主人と同じ信仰の人生を歩むことを決心しました。

御霊に満たされて 涙することが度々

そんな主人とともに、人生最後の仕上げとして、この東京神殿で奉仕させていただくようになりました。何か月かたつたころです。とても熱心なある姉妹に気がつきました。どこでその日のスケジュールを見られるのか分かりませんが、朝一番の儀式に必ず参入されるのです。日によっては特別に時間が変わることもあるのに、きちんとおいでになるのです。わたしは、きつと近くに住んでいる人だろうと勝手に思っていました。実は電車を乗り継いで1時間以上かけて来ていらっしやったのです。毎日、1時間ほどの奉仕ですが、姉妹の謙遜な態度、お金と時間をかけての奉仕に頭が下がる思いがいたします。

参入者、儀式執行者の方々と出会い、喜びをもって帰られる姿に励まされ、1日の疲れもいやされる思いです。死者の身代わりの儀式を静かに行っていると、その方が「ありがとう、ありがとう」とお礼を言われる声が聞こえてくるかのようで、御霊に満たされて涙することが度々あるのです。

わたしの望みは「従順で素直であり……忍耐と寛容に富み……与えられるものについては何であろうといつも神に感謝する」（アルマ7：23）ことです。「イエス・キリストだったらどうなさるか」と心に思い、すべてに従順であるようにと努めています。今日という二度と来ないすばらしい1日を悔いのないよう、こよなく愛する天父とイエス・キリストのために生きたいと思います。（おきむら・しゅうこ 岡山伝道部山口地方部山口支部出身）

夫の変わりようにバプテスマを決意

——人生最後の仕上げに神殿奉仕——

東京神殿宣教師 沖村周子

わたしがバプテスマを受けたのは1990年6月3日です。67歳でした。教会に反対していたわたしが、バプテスマを受けるきっかけとなったのは、教会に再び活発になってからの主人の模範でした。内からも外からも主人の性格そのものが変わり、優しくなり、行動に現れました。そしてとても親孝行になったのです。

1989年4月に100歳で亡くなった義

母は、「わたしは日本一の幸せ者」と言って、いつも手を合わせていました。以前はわたしと一緒に教会に反対していた義母が、「あなたたちも夫婦仲良くして、わたしの年まで長生きしてください」とまで言うようになっていました。その言葉には深い意味があることに気づきました。主人の信仰を認める許しの言葉だったのです。

「従順は永遠の命を もたらす」

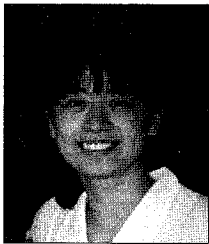
そうした主人の日課は、毎朝目が覚め次第、聖文の勉強です。6時ごろになると、わたしをマッサージしてくれます。最初、始めたばかりのときは三日坊主だと思っていたのですが、ずっと続けました。そして、女の城である炊事場に「従順は永遠の命をもたらす」と、はり紙をしてくれました。そのころには、わたしも主人の数々の模範により福音に対する心の準備はできていたのですが、最初の一步が踏み出



沖村御夫妻

期間は短くても

—生涯にわたる伝道の召し—



札幌ステーキ
厚別ワード

牛丸由里子

1994年の4月、わたしは専任宣教師として働くために日本人宣教師訓練センター（JMTC）に入り、毎日の訓練の中で「これから頑張って伝道するんだ」という期待で胸をいっぱいにさせながら学んでいました。伝道に出ることは前々から望んでいましたが、出るか出ないか迷っていたわたしが、伝道に出ることを決心するまで、約2年かかりました。多くの兄弟姉妹の励ましや祈りの中でついに伝道へ出ることを決心したのです。

わたしの伝道地は福岡でした。北海道で生まれ育ったわたしにとって九州は生まれて初めて行く所でした。そこで永遠の友達をたくさん見つけようと任地へ向かいました。

神様を身近に感じて

伝道は何もかもが新鮮でした。分からないことも多くあり、慣れない口調で人に声をかけるのがぎこちなく、つらいときもありましたが、神様とイエス・キリストをととても近く感じていました。今までの信仰生活の中でこれほど近くに感じたことがなかったほどです。それでも月日がたつうちに難しいことも出てきました。求道者が得られない、予想以上の九州の暑さ、体力の限界、同僚関係……。精神的にも肉体的にもかなり疲れてしまったわたしは、原因不明の熱が出始め、伝道したいという気持ちがしぼんでいくのを感じ始めていました。伝道本部ではちょうど伝道部長が交替する時期で忙しく、休むことができなかつたため、熊本病院に入院することになりました。

入院生活の中でも 隣人に福音を

同僚もだれもない病院に一人で入院したわたしは「これからどうなるんだろう」という不安でいっぱいでした。でも同室の患者さんたちはとても優しく、次第に元気を取り戻したわたしは同室の人に福音を伝える機会にも恵まれました。中には夜寝る前にもともに祈ってくださる方、住所を教えてください方さえいました。わたしは神様の見守りの中で、病院でも宣教師として生活できることに感謝しました。退院したらまた元気に伝道できるようにと、入院中も宣教師の日課にできるかぎり従いました。朝6時半には起き、毎朝祈り、『モルモン書』を読み、レッスンプランを勉強しました。

けれども2か月たっても熱は一向に下がらず、伝道部長と相談した結果、任地に来てわずか5か月足らずで北海道へ帰ることになりました。そのように決まったとき、肉体的にも精神的にも元気になったら、またすぐに福岡に戻るつもりでいましたが、北海道へ帰ったわたしは、結局宣教師の召しを解任されました。

帰ってから心身ともに不調で入院を繰り返したわたしは、伝道に戻ることは不可能だと思いました。1年半の伝道をどうしてもやり通したいとの思いでいっぱいになり、毎日「どうしてたったの5か月で」と悩み、病院のベッドの上で泣きました。わたしの伝道は無駄だったのだろうか、伝道に出た意味などあったのだろうか……。

「時が続くかぎり……」 続けられる伝道の業

そのような状況にあったわたしは、伝道地の方や、JMTC同期の仲間、伝道中の友達、ホームワードの兄弟姉妹からの温かい励ましの手紙を多数受け取りました。それらを読んでいて、

神様はこのようわたしではありましたが宣教師として召して下さり、必要として下さったこと、さらにわたしたちは救いの計画の中において、天父のようになるためにこの地球へ送られたこと、そして何よりも1年半の伝道はこれからの生涯にわたる伝道の一部にしかすぎないことを知ったのです。

「時が続くかぎり、大地が存在するかぎり、地の面に救われる人が一人でもいるがぎり」（モロナイ7：36）伝道は続きます。

わたしはとても救われた思いでした。期間は短くても、主の僕として福岡の地で伝道できたことを心から感謝しています。そして伝道中支えて下さった愛する伝道地の人々、同僚、伝道部長御家族、北海道の愛する兄弟姉妹に感謝しています。

病気や不慮の事故など、様々な理由で伝道を途中で終えなければならなかった宣教師がたくさんいます。それがどれほどの期間であったとしても、宣教師としての召しはこの世から福千年に至るまで続くのであって、1年半、あるいは2年間に限定されるものではないと感じます。

「彼らの捧ぐるものを喜びて納るるはうべなり」

「われ如何なる人の子らにもせよ、命を下してわが名のためにある業を為さしむるに、これら人の子たち力を尽し、その持てるものをことごとく出してその業を為し努めて止まざるに、然も彼らの敵襲い来りてその為す業をさまたぐる時、見よ、われ最早それら人の子たちにその業を為すを求めずして彼らの捧ぐるものを喜びて納るるはうべなり。」（教義と聖約124：49）

わたしは今、地元の宣教師が福音を教えるのを助けたり、あまり活発でない会員と聖文を学んだりしてたくさん伝道の機会に恵まれています。それでも機会を得てもう一度専任宣教師として伝道したいと心から望んでいます。

神様はこの福音を愛する人に、そして心から思いを込めて福音を伝える人に祝福を与えてくださることを心から証いたします。（うしまる・ゆりこ 元福岡伝道部専任宣教師）

できることから

——ボランティア活動から教えられる毎日——

福岡伝道部熊本地方部延岡支部 浮島朗子

「わたしは福音を恥としない。」
(ローマ1:16) 教会で学んでいる奉仕をほかの所で行えばよい伝道になるだろうと考え、そうした奉仕の機会を祈り求めるようになりました。

そんなとき、心身障害児のための通園施設「さくら保育園」で食事の介助、遊び相手のボランティアを探していることを知り、伝道と福音の応用問題訓練になるだろうと、早速出かけました。

「みんな神の子なんです」

初対面の小さなお友達は、青空のようにキラキラ輝くひとみで歓迎してくれました。この汚れない目、どうしてだろう。そうです。この前まで天のお父様と一緒に住んでいた神の子供たちでした。ハンディがあっても、肉体を受ける喜びを自ら選んでこの世に来ているのです。そのことがよく分かりました。

みんな、みんな神の子なんです。神の愛を受けて一人一人いきいきと明るい笑顔でした。主はいつも小さなお友達を通して、愛、信頼、忍耐、工夫、感謝を学びなさいとおっしゃいます。

保育園から帰るときは、子供たち一人一人と握手して、心からありがとうと言います。子供たち全員とお母さんたちが見えなくなるまで手を振ります。そして先生がたにあいさつをして帰ります。卒園してもお母さんと一緒に遊びに来てくれる子供たち。お電話やお母様がたからのお手紙など楽しみは続きます。「さくら保育園」に行くことによって奉仕の方法をいろいろと学んでいます。

「なすべき善を知りながら行わなければ」

「人が、なすべき善を知りながら行わなければ、それは彼にとって罪である。」(ヤコブの手紙4:17) お母様がた、先生がたから、いつも元気ですが

どこからエネルギーが来ますか？ と聞かれます。伝道のチャンスです。新しく何かを始めるとき伝道しよう、努力しよう、ちょっと勇気を持とうと自分に言います。

民生委員として地域の独り暮らしのお年寄り36人を訪問させていただいています。その方々のためにお祈りしていると、愛が大きく育っていきます。訪問のとき主にお祈りして、導きと助けを下さいと申します。時には救急車を呼ばなければならない状況に陥っているお年寄りもおられました。

扶助協会のメッセージ、家族歴史、ホームメイキングで学んだことが、訪問の際の話の種となっています。訪問を心待ちにしてくださっているそうした方々によって、逆にわたし自身が助けられています。暗い表情を明るい笑顔に変えて差し上げられたら、と努めて明るく振る舞っています。主は生きていらして、どんな人にも愛を降り注いでくださっていることを証します。

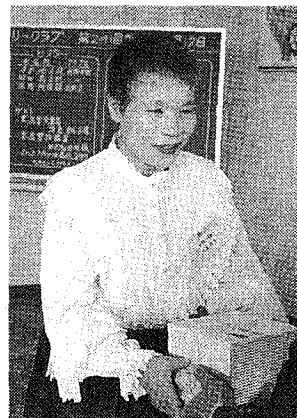
小さな小さなわたしにも、主は導きや励まし、助け、慰めを与えてくださり、できることから行って少しずつ広げていきなさいと教えてくださっています。

気長に、手紙や電話、訪問を続けることで

24年前に延岡伝道所が誕生しましたが、最初にバプテスマを受けたのがわたしでした。それ以来安息日は、父が亡くなったとき以外、休んだことはありません。声のボランティア(NTTのふれあい電話)で独り暮らしのお年

寄りの話し相手をしたりもするのですが、その活動で知り合った方が今教会に集っています。また教会に活発でない方々も気長に、手紙や電話、あるいは訪問を続けていると教会に集ってくださるようになりました。

主の恵みの中で生かされ、福音の応用問題の毎日を過ごしています。訓練中の最高の喜びは、断食して主に感謝のお祈りができることです。主と訓練の助けをしてくださるすべての人々に感謝しています。(うきしま・ろうこワード扶助協会教師)



青い鳥賞受賞の浮島朗子さん(右)・三二夫(左)のおお

浮島朗子さんに「青い鳥賞」

ガバナーが公式訪問 延岡RC

延岡ロータリークラブ(小田伸会長)の例会は十二月、延岡市のニュー夫照のべおかであり、国際ロータリー第2730地区の竹内三郎ガバナーを招いての講話のほか、青い鳥賞の表彰などが行われた。

谷光明幹事の幹事報告のあと竹内ガバナーが講話。今、世界では青少年の犯

罪が増えている。国内に目を向ける一方で、国際奉仕にも目を向けなくてはならない。延岡ロータリークラブは、青い鳥賞を授け、心を通わせている。賞状を手に浮島さんは「さくら保育園の皆さんと一緒に喜びたい。これからも続けていきたい」と喜びを話していた。

『夕刊デイリー』一九九五年七月三日付け。浮島朗子姉妹は長年のボランティア活動により、延岡ロータリークラブより「青い鳥賞」の表彰を受けた。

教会員として43年、教員として40年

——「永遠の生命の実結」ぶ日のために——

仙台ステーキ長町ワード 阿部順夫

わたしは1953年11月28日、満17歳になる直前にバプテスマを受けました。以来教会員として43年。高校教師としても40年近くを勤め上げ、今、定年を迎えようとしています。

10人兄弟の六男、末っ子として生まれ、父母、おじ、兄姉ともに教員という「教師一家」の中で育ちました。

姉は日本人最初の 姉妹宣教師

わが家に福音をもたらしたのは2番目の姉の千枝子です。彼女は1950年9月12日、開設間もない仙台支部の会員となり、日本人最初の姉妹宣教師としても働きました。

その後、3番目の姉、わたし、いちばん上の姉、母の順に改宗し、母は2度のハワイ神殿訪問に参加して父や子供たちとの結び固めを終え、94歳で天に召されました。

日清、日露、太平洋戦争と戦後の激動を生き抜いた母は、体力の衰えた晩年の10年近くを一室内に起居し、読書と筆のすさびに費やしていました。一家の精神的支柱であり、愛と奉仕の人としてわたしたちの模範的な存在でした。

わたしは教会のMIA（相互発達協会と呼ばれた若人の活動）に熱心に参加し、責任を通して育てられ、多くのものを受けました。高校教員となったきっかけと部活動指導の基本は、MIA活動によるものです。

大学時代は家を離れ、教会のない地で4年間を過ごしました。苦い経験もしながら、独り信仰を守ることの困難さを実感し、教会へのあこがれを募らせつつ、兄弟姉妹の励ましの手紙に支えられた時期でもありました。ここでクラブ活動である合唱と演劇とは、その後の教員生活につながるものとなりました。

大学を卒業して、故郷宮城県の高校

教員となったわたしは、仙台支部の家族の改宗者であった塩家の長女順子姉妹と結婚しました。数年後、仙台市内に転勤し、仙台支部長、東北地方部長、仙台副伝道部長など教会の召しも数多く受け、1980年11月、仙台ステーキの設立に伴い、祝福師として召されました。教会の召しによって、わたしは守られ、導かれてきたのです。

その間、教会堂建築にかかわって、信仰による奉仕の喜びを体験しました。また、3人の娘の父となって、子によって教えられ育てられる福音教育の真髄をかいま見ることができました。

学校でなければ教会に、教会でなければ学校に深夜までを過ごす父の下で、娘たちがそれぞれに成長し宣教師となり、信仰の自立を達成しつつあるのは、親として僥倖というほかはありません。こと福音や教会に関しては、娘たちが反抗したり、否定的な態度をとったりするのを一度も見たことがないのです。教会では指導者の娘と呼ばれ、社会では教師の子と呼ばれる重荷に耐え、モルモン2世であるがゆえの不安

や悩みを克服して教会で証を述べる娘の姿を見るのは、父として至福のときでなくて何でありましょう。

家庭と教会が一致するとき、 教育は最大の効果

「わたしたちは家庭に生まれ、教会で育てられる。人の最大の務めは家庭にあり、教育の最大の力は家庭にある。家庭は最小の教会。教会は神の教室。人生は神の学校である。」これがわたしが教会で学んだ真理の要約です。わたしは指導者に素直に従っていただけなのでした。父は子の教師にはなりにくいものです。子を教会に伴うなら、そこには優れた教師がたくさんいました。家庭と教会が一致するとき、教育は最大の効果を上げます。

教職にある者として、社会と文明を崩壊から守る最後のとりでは家庭しかないのだと強く実感してきました。積極的に福音の家庭を築くことこそ末日聖徒の責務だと証したいと思います。

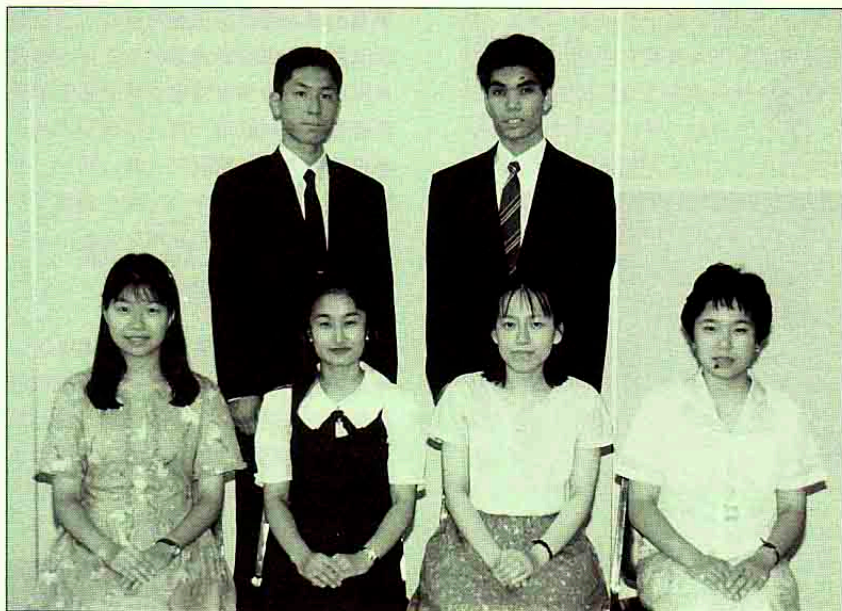
民主教育に名を借りて、ひそかに進められてきた学校教育の形骸化（知識偏重、心を教えない教育）は、「かたち」にのみこだわる日本人を数多く生み出してきました。わたしの40年にわたる教師としての戦いは、「かたち」に対する「ところ」の戦いでもありました。「かたち」で人を見ることの愚かさ、「ところ」を見ようとするこ



阿部御家族

9月に召された専任宣教師

第192期生 6人



前列左から1-4, 後列左から5-6

〈名 前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 小野 綾子	岡山M/松山D/新居浜B	福岡伝道部
2. 宮崎由美子	福岡S/北九州W	神戸伝道部
3. 辻 幸恵	札幌西S/新琴似W	岡山伝道部
4. 椿 憲江	神戸M/奈良D/奈良B	福岡伝道部
5. 嶋内正樹	京都S/彦根W	札幌伝道部
6. 金子眞一郎	沖縄那覇S/首里W	札幌伝道部

S:ステーク, M:伝道部, D:地方部, W:ワード, B:支部

ブックセンターから 価格改定のお知らせ

1995年9月18日付けて、以下の商品の価格が改定されました。

●「子供の歌 英語版」らせんとじ
ハードカバー 39395 ¥850

注：従来の「子供の歌 英語版」らせんとじ ソフトカバー (33441) は絶版となりました。

●「灌油用容器 真ちゅう製」円筒型
86264 300 ¥350

皆さんの原稿を 募集しています

◎御投稿の際には連絡先(住所、電話番号)、教会での責任(役職名)、所属ユニット名と併せて生年を記入し、写真を同封のうえお送りください。原稿は一部手直しさせていただくことがあります。また、掲載までに時間がかかる場合もありますので、御了承ください。

◎お願い——海外に召される日本人宣教師たちを紹介いたしますので、伝道の召しを受け取り次第、『聖徒の道』編集室に写真を添えてお知らせください。(氏名〔フリガナ〕、伝道部名、召された月を明記)

◎あて先: ☎106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会 『聖徒の道』編集室

☎ 03(3440)2666 FAX 03(3440)3275

海外に召された 宣教師



比嘉リネ
ソルトレークテン
ブルスクエア訪
問者センター伝道
部、1994年6月よ
り、沖縄那覇ス
テーク普天間ワー
ド出身



石原聖子
ハワイ・ホノルル
伝道部、
1995年9月より、
神戸ステーキ明石
ワード出身